

平成23年8月10日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日時	平成23年8月10日(水) 午前10時00分
場所	教育委員会室
開会	午前10時00分
閉会	午後5時45分
出席委員	
委員 長	高木新太郎
委員	横井利男
委員	鈴木みゆき
委員	雁部隆治
教育長	横山信雄
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	小暮真人
庶務課長	後藤隆宏
学務課長	藤田悟
指導室長	橋爪昭男
すみだ教育研究所長	渡部和美
生涯学習課長	金子しのぶ
スポーツ振興課長	中山賢治
あずま図書館長	村田里美

2 会議の概要

○高木委員長 時間になりましたので、ただいまから教育委員会を開催いたします。本日の会議録署名人は横井委員にお願いします。それでは、日程に従って進めさせていただきます。

なお、議事の都合により、適宜教育委員会を閉じ、休憩することもあるかと思いますが、ご了承ください。

議決事項第1

議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」の案件を上程し、指導

室長が説明する。

○高木委員長 どうもありがとうございました。

審議に入る前に、これまでの経過などについて確認させていただきます。

墨田区立小中学校教科用図書採択事務取扱要綱に基づき、4月27日から6月3日までの間、教科ごとの教科用図書調査委員会を設けて専門的な調査を行うとともに、6月7日から7月1日までの間、すみだ生涯学習センター内に教科書を展示し、ご来場された区民の方々からもご意見を伺ったところ です。

そして、6月9日に教科用図書選定審議会を立ち上げ、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見などを資料として、7月4日までの間、4回の教科用図書選定審議会を開催し、すべての教科について審議を行い、7月6日に墨田区教科用図書審議会の答申としてご報告をいただきました。

さらに、皆さんは7月12日から8月1日までの間、すべての教科書を実際に手にして教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見などにも目を通していただきながら、教科書の細部にわたりご検討をいただいていたところ です。

なお、本日も本会場に教科書、各報告等を用意していますので、必要に応じてご確認いただきながら審議をお願いいたします。

さらに3月11日の東日本大震災の後、教科用図書の見本文の内容を修正するなどの報告を聞いていますので、この取り扱い、これを指導室のほうに文部科学省及び東京都教育委員会に対応をどうするのか、問い合わせていただきました。

○指導室長 ご報告いたします。

今回の大震災を受けて、文部科学省から各出版社に内容修正等の指示は出ておりません。東京都教育委員会にもそのような情報は入っておりません。内容の修正については発行者が責任を持つて行うことになっております。既に写真等を差しかえることについて通知してきた出版社もございます。それ以外の出版社につきましては、現在検討中であるという回答を得ております。訂正する場合の手順ですけれども、まず出版社が文部科学省に訂正申請を提出します。その内容が認められれば修正は可能になります。この場合、修正後の見本本の提供はございません。来年度の4月に修正された内容で教科書として学校に配付されることとなります。

なお、修正については大幅な変更はできないことになっております。このことから大震災にかかわる指導については、発行者が修正を加えない限り、教科書では見本本にある内容で指導することになります。しかし、大震災に関する子供たちへの指導については、東京都教育委員会が作成している冊子「地震と安全」を、今年度は全児童、全生徒に対して配付しております。

また、今年度末までには都教委のほうで、大震災に関する各教科の横断的な指導資料を作成することになっております。それらの資料を教科書とあわせて活用し、指導するよう徹底してまいりたいと思います。

以上でございます。

○高木委員長 今のようなお話で、教科書によって確かに写真の入れかえなどがあつたのですが、ここでは見本本、大震災のことについては、今お話にありましたように、東京都教育委員会からいわば副読本の形になるかと思いますが、「地震と安全」という冊子が出て、しかも教科の横断的な配慮も行うということで、そちらに任せるといって見本本に沿って、この教科書採択では対応するという

ことにこの教育委員会では、教育委員さん達と一緒にそういう決定をいたしました。それでは、審議の順序ですが、国語から順に9教科15種について審議をいたします。

なお、各評価などの審議の冒頭に学習指導要領に定める教科ごとの目標等について、指導室から説明をしていただきたいと思います。

では、よろしくお願ひいたします。

○指導室長 国語についてご説明いたします。国語の教科の目標は「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる」となっております。次に、新しい学習指導要領による主な変更点について申し上げます。

1つ目、言語活動の充実。発表、案内、報告、討論、鑑賞、批評などの言語活動が具体的に示され、これらを適切に実施することが求められております。

2つ目、「話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと」の各領域の偏りのない総合的な国語力の育成が望まれております。国語の現在使用している教科書は「光村図書出版株式会社」になっております。全5者からの採択をお願いします

○高木委員長 どうもありがとうございました。

それでは、国語の教科書について委員の皆さんのご意見、よろしくお願ひいたします。

○雁部委員 私は初めに墨田区の教育指針において、確かな学力の定着と向上という項目がありますが、そこに着目して選定いたしました。また、もう一つは子供たちがいかに興味を持って学習に取り組めるかという点にも留意して選定いたしました。

結論から言いますと、私は光村図書をお薦めいたしたいと思います。

まず、単元ごとに読む、話す、聞く、書く、または言葉、文法まで満遍なく学習できるようになっている点がよろしいかと思ひます。単元内で習ったことをすぐに復習ができて、これは非常に子供の学力の定着にはいいのではないかと。また、単元を繰り返すことで、確かな学力の定着には有効と考へております。もう一つは、学校の先生も生徒も教科書どおりに素直に使っていけば、身につくという点。それから文法についてもわかりやすくまとまっている点がよいと思ひました。

次に教育出版社ですが、学習の進め方、ねらいが明確になっている点がよいと思ひました。また、各単元の冒頭の脚注で、各単元を読む上での目的を明確にし、各単元後には「道しるべ」で問題提起しているところがよいと思ひます。また、教育出版社のカラーユニバーサルデザインに配慮している点もよいかと思ひます。

三省堂につきましては、比較的新しい教材を、取上げていて、内容も充実していると思ひます。ただやや説明書的な文章が多くあること、2分冊であることが、使い勝手に少々問題があるのではないかと感じました。

東京書籍は、こちらも単元構成で満遍なく学習できるようになっております。単元内でできる漢字道場という欄がすごくよいです。また、読む課題では読解力を身につける工夫をしている欄がありまして、こちらもよいと思ひました。

学校図書については、読む内容に関しては大変充実してありまして、読解力を身につけるにはよいと思ひますが、内容が多過ぎて、墨田区の子供たちには少し難しいのではないかと。バランスがいま一つよくないかなと感じました。

各者問題点はいろいろあるのですが、全体的なバランスを考慮した上で、私は光村図書をお薦めし

たいと思います。

○鈴木委員 私も全者、拝見いたしました。それぞれ得意とする領域があるのかなと思いました。

東京書籍は、何を学ぶのかという大きな柱が非常にわかりやすかったと思います。

学校図書は、修得、活用、探求という形で、学びの道筋がわかりやすいと思いました。

三省堂は説明文に、最近のものを使っていらっしゃるの、おもしろいと読んでいて思いました。

ただ光村図書と、それから教育出版は古典の書き方が、上が古典で、下が現代文というふうに学びの入門としてはわかりやすかったことと、それから学習の記録などがビジュアルで、整理がしやすいというふうに感じました。また、こういう本を読んでもたらどうですかという、子どもたちへの読書への誘いというのがとても上手で、特に光村図書はそれぞれちょっとした内容の紹介みたいなものついていたので、そういう意味では光村図書と教育出版が両雄で、光村図書のほうが丁寧ではないかというところを感じました。

○横井委員 私も各者それぞれ子供たちのために本を作ろうという努力が見られて、どれをとるか大変難しい問題だと思いました。

一つの視点として、同じ教材をどのように扱っているかということを考えました。1年で共通する読み物教材として、ヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」というのがあるのですが、それを具体的な例で比較してみると、それぞれ特徴があります。

東京書籍は148ページからですが、目立つところでは脚注に当たる部分の新出漢字についての扱いが大変丁寧だと思います。1年の148ページ。新出漢字が出てくると、読み方が書いてあるだけではなく、ほかにどのような使い方があるかという例が出ているというのはよいと思いました。それから150ページ、151ページを見ると、脚注の左右に読解の手引きが書いてありますが、「少年の日の思い出」を読むための学習のねらいのようなものは特には書かれておりません。

学校図書は258ページ、これは新出漢字がただ羅列してあり、やや見にくいのではと思います。

それから三省堂、このヘルマン・ヘッセ、他者は全てメインの教材として取り上げておりますけれども、三省堂は資料編のほうになっております。文学的な読み物については、例えば本冊で68ページに、「空中ブランコ乗り」という読み物がありまして、これは新出漢字に当たるものは出てこないですね。脚注はまさに脚注として使われているようであります。三省堂は、1年の68ページの右下を見ると、282ページを参照するようになっておりまして、282ページに、どう読み取るかということの参考になる事柄が書かれております。それはおもしろい工夫だなと思いました。

教育出版は110ページ、このタイトルのすぐ右に、学習のねらいが目立つように書かれています。他の教材についても、大体同じようにねらいが書かれている。それから脚注に当たるところに、注釈がカラーで図鑑のようにきれいになっているなど、いろいろ丁寧かなと思います。ただ、脚注が余り華やか過ぎると本文が目立たなくなるおそれはあるかもしれません。

光村図書は178ページからなんです、こちらは学習のねらいはタイトルの下に書かれております。注もカラーではありませんが、そこそこになっているので、これだけ見ると教育出版とか光村図書が少なくともこの単元についてはよいかなと思います。

それから、読み物ではなくて、各領域についてどのようなことが配慮されているかもチェックしてみました。それぞれかなり違うスタンスといますか、アプローチといますか、書くことを指導するようになっております。甲乙つけがたいところがありますが、私は三省堂が資料編が別冊になっていて、充実しているの、学習を深めたい子供たちにとっては非常に有効かなという気はします。

れど、実際にお使いになる学校の先生の方が分冊になっていると、なくす心配があるとか、忘れる心配があるとかいうようなことで、評価が分かれると思います。

光村図書は全体的にバランスよくできておりますのでいいと思いますが、丁寧に見ると、地震関連の教材が3部、原発関係、チェルノブイリですけれども、関係が1本。そういった災害や原子力問題を意識させるという意味では、あつていいと思うのですが、取り扱い方を間違えると、子供たちが変に誤解をしたり、先生たちも扱いが難しいということはあるかもしれません。それから光村図書は他者に比べると、近代文学教材が少ないですね。教育出版は芥川の作品が全学年を通じて2つ含めて4作品があります。三省堂は芥川が1を含めて3作品。光村図書は鷗外と漱石の2作品だけです。ですから近代の作品についてはやや不十分だと思います。

私は教育出版が学習のねらいが明確であること、脚注が充実していること、教材に偏りが少ないことなどで評価できると思いますが、あとは三省堂と光村図書あたりも十分に考えていいかなと考えております。教育出版は単元構成、順番が領域別になっているのが特徴的なので、これも評価が分かれるところかもしれないと思っております。

○教育長 私としては、学校図書版と光村図書のどちらがいいかなと考えています。

学校図書版は内容として読む教材が充実しているように思いました。読みごたえのある文章が多く、読解力を課題としている本区においては良いように思うのですが、反面なかなか読みこなすのが難しい面もあるという印象です。そうした中、光村図書版はそれぞれの学年に適した内容になっているものと思います。あと先ほど横井委員からもご指摘があったように、脚注の記号表示が光村のほうがわかりやすい。その辺の表現が、少々工夫がされており、どちらかと言うと光村のほうが良いというのが私の意見です。

○高木委員長 全体を見ると光村図書はいわゆるスタンダード、標準的なスタイルだと思うんです。先ほど話に出ました三省堂のように、資料をつけるとか、そういうのは工夫でプラスの評価もあるでしょうし、何冊も持っていくのもという話があったようにマイナスの評価もあるのかもしれませんが、そういうことが、光村図書には余りないですね。

国語はやっぱり重要な教科なので、特に日本の学力テストというとOECDのPIISAというのがあるんですね。そこで文部科学省が重視したのが、読解力の低下ということに、非常に文部科学省初め力を注いできました。そういう観点から言うと読み物、読書案内ですね。例えば光村図書ですと、1年生ですが、84ページをあけていただくと、読書案内、いろいろ出ていて、こういうふうに整理されていると、分野ごとにいろいろな本がありますから、子供たちが学校の図書室、あるいは公立の図書館に行って勉強するときに参考にしやすいわけですね。やっぱり本に親しむということが一番読解力の向上につながると思いました。

もちろんほかの出版社でも読書は重要だと感じているように思います。例えば東京書籍だと、90ページに「読書への招待」がありますが、取り上げる本がどうかというところが一つポイントなんですが、要するにこの90ページと光村図書の84ページを比較すると、光村図書の方がジャンルが広くて、しかもコンパクトにまとまっているんです。

例えば最初の3つ、90ページの東京書籍のほうですと、読書案内で、最初の3つが欄が大きいわけです。要するにそれだけページを割いているわけです。そこで「15歳の長崎原爆」、「ガラスのうさぎ」、「沖縄戦の絵」とかそういう本が紹介されていますが、もう少しバラエティに富んでいたほうがよいと思います。そういう意味では光村図書のほうがバラエティに富んでいます。1年の86ページ

のように、芸術や冒険、自分、詩歌というふうにジャンルを分けています。

それからもう1点、読書関係で言うと、横井委員からもお話がありましたけれども、墨田区ゆかりの芥川龍之介の扱いかあるわけですが、東京書籍では1年で芥川龍之介の「トロッコ」、学校図書では3年で芥川龍之介の「少年」を扱っている。それから三省堂はやっぱり1年で「トロッコ」を扱っている。教育出版は「蜘蛛の糸」と「トロッコ」と両方扱っている。光村図書は2年の265ページで、郷土ゆかりの作家・作品というのがたくさん並んでいます。その中で、芥川龍之介の「大川の水」というのが紹介されています。これは百本杭が出てきますから、横網あたりですかね、いわゆる蔵前橋付近だと思います。

それから光村図書の3年で、やはり「羅生門」の出だしが出てくるところがあります。そういうわけで読書に焦点を当てると、各者、芥川を中心に全者とも墨田区の作家、作品を取り上げているというのが非常に国語を見ていてうれしく思います。やっぱり量からすれば、教育出版が取り上げ方としてはよいのかなという気がしないでもない。

ただ、先ほどの話にありました古典の取り扱い、例えば光村図書の1年で「竹取物語」が出てきます。138ページですか。この「竹取物語」はもちろん古文ですが、わかるように下に現代文、例えば「今は昔」というのは、「今ではもう昔のことだが」というように書かれています。それから139ページ、出だしにありますように、日本の物語では最古のものと言われている「竹取物語」の冒頭文になる。その後、物語が次のように続いていくという形で、「竹取物語」の性質ですね。それから140ページには、原文とそれに合わせた現代訳みたいな形が対になって載っているの、子供たちが最初、古文をやるときにこの解説というのは非常によくできているように思います。そういうことを考えると光村図書でいいかなというふうに思っております。

それで、皆さんの意見を拝聴すると、光村図書か教育出版かというような感じですが、雰囲気では、光村図書がいいというふうに思いました。光村図書出版でよろしいでしょうか。それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、国語について採択をしたいと思います。国語は「光村図書出版株式会社」を採択することにしたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高木委員長 それでは、「光村図書出版株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、書写について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○指導室長 書写に関する指導事項は、「字形、文字の大きさ、配列・配置などに関すること、漢字の楷書と行書の書き方、漢字の楷書や行書に調和した仮名の書き方に関することから構成されております。正しく整えて早く書くことや、書写の能力を生活に役立てる態度の育成などが求められております。毛筆の使用は各学年が行い、硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。」が記されております。

指導の時数は、第1学年及び第2学年では、年間20時間程度、第3学年では年間10時間程度とすることとされています。新しい学習指導要領による大きな変更点はございませんが、採択にあたり系統的な配列、学習意欲を喚起する構成、硬筆と毛筆との関連や生活に生かす視点、手本の確かさと

美しさ、視覚的な工夫などの観点等も考慮してご審議ください。書写の現在使用している教科書は「光村図書出版株式会社」でございます。全6者からの採択をお願いします。

○高木委員長 どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆さん、ご意見よろしくお願いいたします。

○雁部委員 書写につきましても、国語同様に光村図書を薦めたいと思います。

理由はまず硬筆の練習が、なぞり書きや書き込みでできるようになっている点が良いと思います。また、筆運びの表現がわかりやすい。それから、25ページの、見開きにより、楷書と行書の比較ができるようになっている点が良いと思います。手本自体が力強い字体で書かれておりまして、これもよいのではないかと思います。

ただ問題点というまでにはいかないのですが、光村図書の特徴でイラストが多様されていて、書写という本の性質上、ここまでイラストが必要なかどうか、今の子供たちはそのほうがいいのかどうか、私は疑問に思いました。細かいところですが、6ページ、この用具の片づけ方というところまで載っておりまして、これは使った後にちゃんと片づけるという教えが載っていて大変よいと思います。

あとは1年、2年、3年ともトータルで言いますと、30単位時間程度なので、1冊で十分ではないかというのと、もう一者、学校図書も1冊ですが、ほかは全部2分冊になっております。この辺は考え方ですが、30時間単位程度ということであれば、1冊を大事に使うというそういう教育もしているのではないかと思います。

三省堂は、ここも硬筆で練習、書き込みができるように書き込む欄が多くなっております。運筆は朱墨と淡墨で視覚的効果は大変高いです。毛筆の手本は見開きで原寸大になっております。ほかの会社ですが、分冊のところは最初のページは姿勢とか書き方の基本の部分が同じような表現になっておりまして、男女別に分けてあるというところには配慮がしてありますが、ここまで必要かというのが正直な感想です。

三省堂は、行書は行書でも少し字が崩しになっているのが気になりました。

教育出版は、ここも同冊。このいいところは、2年、3年の本の見開きですが、あの人が残した文字というのがあり、著名な方の筆跡が掲載されているというところがいいのではないかと思います。ただ、硬筆で書き込む欄がないんですね。そこがちょっと難点かなと思いました。

それから東京書籍は見開きで、半紙と同じ原寸大になっています。大きさが覚えやすいという点ではよかったです。運筆はやはり朱墨と淡墨で視覚的効果が高い。こちらはあるにはあるんですが、硬筆で書き込む欄が少ないです。

学校図書は、1冊ですけれども、こちらは朱墨と淡墨で視覚的効果は高いんですが、中学生の狭いテーブルで広げて手本とするときに、大体折り返すんですけれども、折り返しがしにくいのではと思いました。

大日本は、こちらも分冊で、運筆は墨の濃淡で示していますが、このことに関しては具体的な説明が書いていないので、学校の先生の力量に左右されてしまうのではと思います。あとここも唯一の問題点として、毛筆の手本がかなり小さいです。1年生の6ページを見ていただくとわかるのですが、かなり小さい字で書いてあります。書くときに大きき的なバランスがよくわからないのではないかと。そういうところで、まずは実際に硬筆の練習ができる、あるいは筆運びの表現がわかりやすい等、全

体的なバランスを考えると光村図書をお薦めしたいと思います。

○**横井委員** 私も光村図書でいいと思うのですが、細かい点については今、雁部委員がおっしゃったとおりで、あと補足すると光村図書の82ページ、資料編ですが、「手紙の書き方」というのがあります。その後「はがきの書き方」もあって、これが比較的充実しております。特にこの82ページの横書きの事務的な文章のパターンはほかにはなかったと思うのですけれども、なかなかわからない方がいて、やっぱり子供にきちんとこういうパターンがあるんだということを教えるのは必要なと思います。

それからちょっと細かいことですが、平仮名で「いろは」を扱っております。光村図書は「いろは」を七・五・七・五で書いています。52ページです。もう一つ前に、14ページに楷書ではないけれども、普通のイロハ、52ページが行書に調和する仮名ということになっておりますが、これが七・五・七・五で本来の意味に合う表記の仕方になっておりまして、子供たちも日本人としてこういうふうなことをきちんと身につけておくのはいいのではないかと思います。

三省堂は「いろは」がなかった。「あいうえお」だけであったと思います。

東京書籍は丁寧に書かれております。大日本図書と教育出版は6文字ずつべたっと書いてあるんです。ですから、いろは歌の本来からすると教育出版や東京書籍の書き方がいい。総合すると、光村図書や東京書籍がいいと思いました。

○**鈴木委員** 今の横井委員とかぶるところもあるのですが、私は生活の中の書写というところに注目をしてみました。やはり光村図書がいいかなと思う理由は、82ページから89ページにかけて、さまざまな形の手紙の書き方、特に一筆箋があるというのは非常に新しいと思いました。この事務的な文章の横書きに対しては光村図書だけですし、実は東京書籍と、それから大日本図書はお礼状が横書きなんですね。お礼状が横書きが悪いと言っているわけではないのですが、縦書きのものをきちんと最初に学んでほしいという思いがあります。

ほかに、例えばその点では三省堂が割とあっさりとしておりますし、それから教育出版も丁寧ではあるのですけれど、種類としてそんなに多くないというところがあります。東京書籍のいいところとしては、職場訪問のお礼状ということで、これは恐らく家庭科の教科との連携を図っているのではないかと思いますので、他教科、教科の横断的な配慮というところでは東京書籍がよくできていると思いますが、さまざまな文体に触れることと、それからみずから書いてみようというときに参考になるという点では、やはり光村図書がちょっと頭一つ出ていると思いますので、光村図書を推薦したいと思います。

○**教育長** 各委員からそれぞれの教科書の特徴を言われているので、結論的なことだけお話しします。

生徒の視点で考えた場合、学校図書版でも硬筆練習ができるように工夫されていますけれども、光村図書版はなぞり書きができるようになっていくということで、非常に書き順が問題になっている子供たちの中で評価できると思います。

それから、1冊でまとまっているから良いと雁部委員からありましたけれど、非常にコンパクトでいいという点と、さらに鈴木委員からありましたように、さらに光村本が生活を生かす教材が多いのかなと、そういう印象を持っていますので、私としても光村版が良いと思っております。

○**高木委員長** 僕も実は手紙のところを全部見ていたんですが、光村図書が縦書き、横書き、確かに両方あって、外国への手紙まで載っています。幅広く封筒の書き方、それからもちろん本文の書き方、はがきの書き方、それから例えば同じ書き方でも、82ページというのは縦横に、もちろん文章は違うんですが、いろいろな書き方を示していくということがおもしろいと思います。82、83、84ページは

「御中」で、85ページになると「様」というふうにはがきの書き方をちゃんと整理しています。あわせて、ノートのとめ方や願書の書き方なども工夫していて、要するに光村図書1冊でまとまっていますから、1年生で教えてもいいし、2年生で教えてもいいという内容が多分混ざっているんだろうと思います。

それに対して2分冊に分かれている本が多いのですが、こちらだと多分1年だとそれを教えなきゃいかん。2、3年だとそっちが教えないといけないというふうに仕分けされているので、それをどう考えるかというのが一つのポイントになるかと思います。東京書籍は1年と、2、3年と分かれます。今のはがき等は1年生で出てこないですね。それで2、3年の29ページ以降、世話になった先生方へとかいう格好で、34ページでしょうか。たしかそこで初めて出てきたんじゃないかな。だけど、はがき・手紙というのは、一番使いそうな気がするんですよね。そういうのが後ろへ回るといのは、どうなのかなという気がいたします。

それともう一つは、硬筆と毛筆の取上げ方もあると思うんですね。全体的にこんなに硬筆の勢力が強くなって大丈夫かなという気がしますが、時代の流れなんですかね。要するに実用から言ったら、毛筆というのは書道を習っていて特殊な方々が好まれるわけですから、実用性を重視すると硬筆に移行するんだろうと思います。でも物は考え方で、毛筆ぐらいどこかで習っておかないといかんという考え方もあると思うんですが、やはり中学生あたりが一番よいと思うんです。その辺のバランスも光村はとれているというふうに思いました。

そういうことで光村図書で構わないだろうというのが、私の意見です。

それでは、今の皆さんの意見をお聞きしていると、もちろん対抗馬の出版社もあるわけですが、全体としては光村図書がいいというふうに拝聴しましたので、書写の教科書は光村図書を採択することにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、書写について採択をしたいと思います。書写は「光村図書出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○高木委員長 それでは、「光村図書出版株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、社会・地理的分野について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○指導室長 地理的分野についてご説明いたします。社会科の教科の目標は「広い視野に立って社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的、多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」となっております。また地理的分野の目標は「日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を養う。」となっております。次に、新しい学習指導要領による主な変更点について申し上げます。生徒自身が「身近な地域の調査活動」を通して、社会参画の視点から調べ学習に積極的に取り組むことが重視されております。「自ら調べて考える学習」が実施しやすい構成になっているか、といったことも視点のひとつとして考慮していただき、ご審議いただければと考えます。地理的分野の現在使用している教科書は「株式会社帝国書

院」でございます。全4者からの採択をお願いします。

○高木委員長 ありがとうございます。

今回は私からお話します。結論から言いますと、地理的分野では東京書籍がいいと思います。その理由なのですが、いろいろな審議会とか調査委員会の報告書によると、地理と地図というのが関係するののかという議論が出ております。僕はやっぱりこれ独立したものだというふうに思っていました。

理由は、そうしたら一遍に2種目とってしまうことになってしまうわけだし、地理は4者、地図は2者ですから、だからそういうことがなくて、地図は地図として一般性を持っていて使えるということで、地理と地図は別物であるというのがまず第1点ですね。なぜそんなことを言うかということ、東京書籍というのは地図を発行していますから。今回の改訂への対応が幾つかあるんですが、一つは言語活動の取り上げている箇所ということなんです。東京都教育委員会の調査によりますと、東京書籍が142カ所、それから教育出版が130カ所、帝国書院が120カ所、日本文教が93カ所というふうに、東京書籍はこの言語活動、ほかの科目もそうなんです、非常に重視しております。だからそういう意味では指導要領の改訂に沿った方向で編集されているということがあります。

それからもう一つ、言語活動と非常に関連するんですが、レポートを書くというところがあるんですが、そのためには用語解説があったほうが便利なんです。巻末に解説の項目がある教科書用語解説というのを本文の中で紹介しちゃう教科書、用語解説という格好で、一覧的なタイプがあります。東京書籍の地理をあけていただけますか。256ページです。そこに用語解説があって何ページに出てくるかということが出ています。こういうスタイルをとっているのが東京書籍と教育出版です。

帝国書院は本文の中に入っちゃうんですね。レポートを書く時は、索引で引くことができる、東京書籍や教育出版のような一覧タイプのほうが利用しやすいのではないかと思います。

それから次に内容に少し入るわけですが、一つ今回の改訂への対応として三大宗教、世界の宗教分布というのをどう扱うかということがあります。東京書籍は36、37ページで世界の宗教分布を扱っています。ここで重要なのは仏教、キリスト教、イスラム教は三大宗教と呼ばれる。それで宗教人口からすればヒンズー教は多いんですが、これは特定の民族や地域と強く結びついて信仰されているというので、線を引くんですね。単に信家が多いからというような形でなくて、広がりをもって三大宗教について解釈しているということをつけているんです。

教育出版は、28ページから31ページにかけて、宗教と社会のさまざまなかかわりを書いています。特に教育出版のいい点はどこがいいかというと、30ページに副題として宗教の共存と対立ということが正面切って書かれている。要するに日本は多神教ですけども、一神教のイスラム教とかキリスト教だとか、時々紛争も起こすということがあります。

それから帝国書院は38ページ、39ページ、ここにやっぱり仏教、キリスト教、イスラム教の生活と一緒に触れられています。

日本文教は内容が、飛ぶんです。一遍にまとめてくれればいいんだけど、飛んでいるというところがこれを使いにくくしています。具体的には仏教が44ページと50ページです。44ページが仏教、ヒンズー教が入りますね。それからあとイスラム教、それが50ページ、キリスト教が58ページですね。ちょっと文脈が宗教で統一されているかどうかというのが希薄になっているということがあります。

だからこの中だとやっぱり東京書籍と教育出版あたりがいいんだろーと思います。

それから次が領土関係、今、我々も領土関係があるんですが、これは書き方の問題ですよ。東京

書籍は116、117ページです。それから教育出版は124、125ページ。帝国書院はやっぱり124、125ページ。それから日本文教が122、123ページ。

領土関係はみんな扱っています。社会科は地理と歴史と公民と3つありますが、3つとも領土の話が出てきます。だから何度も聞かされます。それで内容が違うということが、この執筆者が違うからおもしろいところだと思います。

それで、東京書籍からいきますと、まず範囲ですね。領土ですから、領土の範囲が問題になってきます。北方領土については117ページの上に出ています。それから、要するに116ページには日本の経済水域が出てくるんですが、これ、わざわざ生徒に教え込ませようと思って質問形式で出ております。沖ノ鳥島も出ている。北方領土については歯舞、色丹、国後、択捉、云々ということが117ページに書かれています。だから問題は書き方がどうかというのが多分人によっては問題視する。

東京書籍では、第二次大戦後にソビエト連邦が占領し、ソ連解体後もロシア連邦が引き続き占拠しており、これは場合によっては不法占拠のほうがいいんじゃないかと思います。そういうふうな話になるんですが、そういう占拠しており、現在この島々には日本人は住んでいません。それと同時に、ビザなし交流が進められているということも大事です。それで下から2行目に、竹島が出てきます。「日本海上の竹島は日本固有の領土ですが、韓国が占拠しており、対立が続いている」ということで、一応ここでは北方領土及び竹島及び沖ノ鳥島、これは下に工事後なんて書いてありますけど、工事前、工事後がついている。というような格好で割と詳しく取り扱ってはいます。ただ欠点は尖閣諸島がないでしょうね。今だと尖閣諸島は必要でしょうね。記述がないです。

それから、教育出版の場合はどうなっているかと言うと、124ページ、125ページですが、教育出版はやっぱり同じような形なんですけど、要するに東京書籍よりやや表現が急になっています。だから教育出版のほうは経済水域のほうでちゃんと尖閣諸島、竹島を載せていますね。それから北方領土は右側125ページになっている。北方領土の説明がやはりここでは大事というか、「1945年の第二次大戦の終結後にソ連に占領され」というのが、「ソ連の解体後もロシア連邦によって不法に占拠されています」というので、こっちのほうがいいという人もいるでしょうね。それで同じような表現が竹島についても「1952年以降、韓国政府が不法の占拠を続けています」とあります。

教育出版は尖閣列島の記述は全くないですが、地図上に載っかっているということですね。

それから次が帝国書院ですけども、帝国書院では、124、125ページですが、帝国書院の地図はどうも東京書籍と余り変わらないという形です。問題は北方領土の文章なんですけど、「日本はロシアに対して北方領土の返還を求め続けていますが、解決していません」というふうに軽く書かれています。竹島についても韓国との間に「主張の相違があります」とちょっと退いたような書き方になっていません。

それから日本文教は122、123ページですが、これは尖閣諸島、それから竹島、一望の格好で北方領土が見られる。122ページですね。それでこの工夫は123ページの地図にあるように、日露通好条約、樺太・千島交換条約、ポーツマス条約、第二次大戦というふうに北方領土が動いてきているという地図が、ほかと違って工夫されています。これも「日本固有の領土でありながら、ソ連に占領され、現在もロシアに不法に占拠されています」という書き方です。それから韓国については「1952年から自国の領土であると主張している」という書き方です。尖閣諸島と沖ノ鳥島について、ここでは明示された格好で表現されています。そういう欄がつくられています。だからそういう意味では、今流に言うとうと、この日文がいいかのように見えるんです。

ところがもう一つ領海と経済水域の関係があるんですが、日本は意外と領海はかなり大きいというのが国際比較で出てくるんですよ。要するに領海と経済水域面積の話なんです、これが国際比較で出ているのが東京書籍の117ページです。そして帝国書院もそうです。帝国書院、教育出版と出てくるんですが、日本文教には出てこない。要するに領土と領海と随分違うというのが、これを見るとよくわかるんですね。例えば日本は領土面積は少ないですが、下のブラジルと比べるとわかるように、日本はブラジルよりも領海、経済水域は多いということがわかります。だからこの情報が大事なんですが、日本文教にはそれが逆にありません。要するに領土と領海の問題というのは非常に重要なんです。それが欠けてしまっている。

それから今度はもう一つ、東京書籍の99ページに第4章というのがあります。これは世界のさまざまな地域調査というのがすべての本に書いてあります。それで取り上げる国がどこかが違うんです。それで東京書籍は韓国を取り上げたんです。99ページから111ページまでだから結構ボリュームがあるんですよ。そういういろいろな表があって、112ページもそうです。だからボリュームがあります。

教育出版は108ページから116ページです。ここもさまざまな地域の調査となっています。教育出版はいいなと思っていたんですが、これは対象国がインドなんですよ。

それから帝国書院ですが、帝国書院は110ページから118ページです。ここも韓国なんです。ここも調べる国や地域とテーマを決めると書いてありますが、これは国際比較が東京書籍より弱いように思います。

それからあと日本文教は、106ページから117ページです。ここで扱っているのがロシアなんです。

それでさてどの国がいいかというとき、やっぱり一番親しい国がいいと思うんですよ。そうするとやっぱり韓国あたりが無難かなというふうに思います。韓国となると東京書籍と帝国書院かというふうになります。

それからあと墨田区の情報というのが割と重視されるので、それを見ますとスカイツリーが載っています。東京書籍だと205ページ、スカイツリーが下のところで写真で載っております。それから教育出版は208ページの左に載っています。それから帝国書院は載っていない。日本文教、これは関西系の日本文教ですら217ページに載っています。ここは、高く載っていますね。では、帝国書院は間違っただけじゃないかなと思っていろいろ探してみたいです。そうしたら225ページに、みなとみらい21の横浜ランドマークタワー、それから227ページに、さいたま新都心。それでスカイツリーがない。

今まで長々しゃべってきましたけど、一つは東京書籍は総ページ数が270ページとほかの出版社と比べてページ数はそんなに多くないですが、出っ張っているんですよ。ワイド版なんです。ほかの歴史、公民もそうなんですが、ワイド版です。これで1割ぐらい大きくなっているかなと思うと、そうすると大した量です。それから2番目、先ほど言いましたように、言語活動が多くて、それで用語解説もまとまってあるので、これは使いやすい。それから領土に関しては、日本文教とか教育出版もあります、帝国書院ほどさらっとしていないし、そういう意味では標準に近いのかなと、書き方が。それから4番目として韓国の調査事例は、ほかにもありますが、近隣だからわかりやすいと。だから帝国書院に韓国の事例があるんですが、どうも使ってみないとわからないが、東京書籍より国際比較が弱いように思います。5番目が経済水域と領土の国際比較、これが日本文教にはないけど、ほか東京書籍を含めて載っています。それからスカイツリーは帝国書院以外は載っているというような、そ

ういうことを総合的に判断すると、東京書籍で妥当なんじゃないかというのが、僕の結論です。

○横井委員 私もやはり地理ですから、領土問題が大事だと思うので、チェックしておりました。委員長がおっしゃるように、教育出版と日本文教が北方領土については非常に詳しく載っていていいんだけれども、竹島問題については表記がかなり違う。それから東京書籍は北方領土と千島、全部含まれております。この千島列島と南樺太は教育出版では白抜きになっております。東書も左の大きい地図では白抜きになっておりますけれども、ソ連はもともとサンフランシスコ講和会議に入っていないわけだから、放棄した千島と南樺太の帰属はまだ未定なわけですね。だからそれを意識する上では、教育出版の地図が非常に明確であります。東京書籍も千島列島全島かいてあるというのはいいかなと思いますけれども。

先ほどから委員長がおっしゃっているように、領土を他国がどうしているかという点では、東京書籍が「占拠しています」と。北方領土も竹島も「占拠しています」と書いてある。教育出版は「不法に占拠しております」と書いてあります。帝国書院は主張の相違がありますみたいな、竹島について書いてあるのはちょっと軽いですね。そういう意味では教育出版か東京書籍が妥当かなというふうに思うんですが。それから世界調べについては韓国かインドかということになりますけれども、私は韓国は身近で親しみを感じるという意味ではあるんだけれども、民族性や文化が似ているから、違ってもいいかなと。ただロシアでは広すぎるし、漠然としている。インドあたりはBRICSで、発展途上国の典型でおもしろいかなと。だけれども、韓国もありかなと思います。

あと地域調べという単元があるんですけども、地域調べ、日本文教は小牧ですね。帝国書院が八王子、教育出版が名古屋、東京書籍は静岡なんですけど、地域はこれは事例研究だからどこでもいいわけですけども、中を見てみると、東京書籍の研究の進め方と内容が非常によく対応していて、これはいいかなと思います。教育出版もいいんですが、班別に調査するというふうについて事例を挙げているのと、計画を立てる段階で実際にどういう班をつくったかということが対応していなくて、実際にこの教科書を見て活動する場合には、これでもいいのかなと、私にはうまく読み取れなかったので、子供も混乱するかもしれない。そういう意味で、私は領土問題については教育出版か東京書籍、それから班別学習については東京書籍がいいかなと思います。地域についてはどちらもありかなと思っております。

○雁部委員 私は、子供たちの目線から考えると東京書籍のワイド版、地理という性質上から、ワイド版はインパクトがあって、写真も多く、そのほかの題材も大きく取り上げられているのでよいのではないかと思います。

帝国出版なんですけど、技能を磨くコーナーというのがありまして、ここは、例えば42ページのグラフの読み取り方、つくり方とか、実際に試験とか、問題になりそうなことに対しての対応策というか、そういうヒントが載っている点が物すごくよいと思いました。領土問題については、帝国出版は先ほど委員長がおっしゃったようにちょっと弱腰かなという点と、東京書籍の領土問題についての表現は適当でよいかなと思います。それから世界の中の日本を考えた場合に、地域のことを取り上げているところで、東京書籍も帝国書院も、これからは世界といってもアジアの時代かなというところを踏まえれば、身近な韓国等を取り上げている点はよいかなと思います。日本文教は、私個人的に気に入らないのは、ちょっと西日本の事例が多くて、もう少しこちらのお話も載せてほしいと思います。

○鈴木委員 私は、本区の状況から考えました。結果として、子供たちが小学校の社会から中学の地理に移ったときに、どこにポイントを置いて見たらいいのかというところをちゃんと示してくれるとこ

ろがいいと思いました。

まず、例えば東京書籍の30ページ、31ページを見ていただきますと、地理スキルアップといひまして、写真の読み取り方というのが出ています。木を比較しなさいとか、家を比較しなさいというようなところで、それで31ページの下に、フィジーの食べ物の特色を気候と関連づけて、40字程度で説明しましょう。40字だと生徒からすると、ハードルが低くてやってみようかなという気になるのではないかと思います。

帝国書院とか他者のものは、とてもきれいな写真は同じように載っているんですが、例えば帝国書院ですと、34、35ページに、イタリアとモンタナの写真が出ていたりするんですけども、丸太を初め、角材などさまざまな木材を組んで家をつくっています。それ以上の情報がない。それから教育出版ですと、例えば22ページに、イグルーが出てくるんですけども、写真でイヌイットの生活というだけなんです。そういう意味では日本文教出版は、例えば24ページ、アンデスの標高とできる作物との関係とかが出てるのはいいなと思ったのですが、何々を調べてみましょう、何々を探してみましょう、何々をまとめてみましょうという、東京書籍さん以外は全部、探してみましょう、調べてみましょう、まとめてみましょうというような形で、非常に漠然としている。だから中学校の生徒の立場になってみれば、例えば東京書籍さんの地図から読み取れることを3つ挙げましょうとか、具体的にポイントを抑えながら、考えていく手順を示してくれる意味では東京書籍さんがいいかなと思っています。

○**教育長** それぞれ委員長がいろいろな諸点を言っています。

私は現在使っている帝国書院版で、領土の地理等における内容構成という面で、どの時代も生徒が選択して、できるように工夫されている点や世界地理についても、主題に基づいて学習を、子供たちが意識してやるような面があってもいいと思うんですけども、先ほど皆様からありますように、東京書籍が地図や写真がすごく多く活用されていて、私も非常に良いと思います。あと全体的にバランスがとれているように思います。ですから、私も東京書籍で結構だという意見です。

○**高木委員長** でも、帝国書院にはスカイツリーが載っていない。余り、そればかり強調しているんじゃないけど。

○**横井委員** 補足ですけども、先ほど東京書籍で、委員長は尖閣諸島が載っていないというお話がありましたけれども、考えてみたら、尖閣諸島は紛争の種にはなっていないので、あえて取り上げる必要はないかなという気はいたします。

○**高木委員長** 日本固有の土地ですね。

○**横井委員** 固有の土地で、しかも管理しているわけですから。書かれていなくてもいいと思います。

○**高木委員長** わかりました。ほかに何か追加されることありますか。では、皆さんの意見をお聞きしていると、東京書籍で結構でしょうか。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、社会・地理的分野について採択をしたいと思ひます。社会・地理的分野については「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思ひますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**高木委員長** それでは、「東京書籍版株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、社会・歴史的分野について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○**指導室長** 歴史的分野の目標ですが、「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育て

ること、歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重する態度を育てること、我が国と諸外国の歴史や文化が、相互に深くかかわっていることを考えさせること、そして、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して、歴史に対する興味や関心を高め、資料を活用して多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てること。」となっております。学習指導要領上の変更点としましては、1つ目が、「我が国の歴史の大きな流れ」の背景となる世界の歴史の扱いを充実する。2つ目として、伝統や文化の特色の理解につながる学習を一層重視するといったことが挙げられています。現在、社会歴史的分野の使用している教科書は「株式会社帝国書院」でございます。全7者からの採択をお願いします。

○高木委員長 歴史はいろいろな見方があるんですが、今、改訂のポイントにありましたように、何点か重要な点があると思います。

結論を言いますと、帝国書院がいいというのが結論なんですが、それについて説明したいと思います。まず渡来人、帰化人の扱いです。東京書籍は33ページ、それから教育出版は23ページ、清水書院は27ページ、帝国書院が25ページ、日本文教出版は31ページとあと54ページにもちょっと絡んでいます、渡来人と渡来文化という格好で出てきます。一応30、31ページのほうを見ます。それから自由社が49ページ、育鵬社が31ページ、というふうに渡来人、帰化人というのが出てきます。要するに大和政権のころの古代人の話ですね。大陸のほうから移住して、その人たちを渡来人と呼ぶか、帰化人と呼ぶかという話です。

結論として書き方を見ますと、自由社は「帰化人（渡来人）」と書いています。49ページの下から5行目、「帰化人（または渡来人）」と書いてあります。それで育鵬社は31ページの上から7行目、「帰化人（渡来人）」と書いてある。ほかの5者は全部「渡来人」です。何でこんな問題になるかということですよ。日本書紀は帰化人と呼んだんですね。ところが、帰化人と渡来人というのは意味が違うというのが最近の考え方ようです。だからそれを渡来人が仕える君主、王族のトップですが、そういう人の徳に感化されて帰依するなら帰化人でもいいけれど、単に来て、何のために来たかともかくとして、来た人たちを帰化人と呼ぶのはふさわしくないというのが今の流れ。だから渡来人になるんです。でもこの2者はこんなこと許せませんから、だから「帰化人（渡来人）」、要するによくわかっているんですね。書いている人がね。

これは大和政権のころだから、今あけてもらったページのところに、全部大和政権の話が出て、それで大和政権というのを、この2者は、例えば自由社は40ページ、そこのページとずれるのもあるんですが、40ページに大和朝廷という書き方、しかも断定的に「大和（奈良県を勢力の基盤にした大和朝廷）」という書き方をしています。それから、育鵬社は29ページに、「大和地方を基盤としてつくられた大王を中心とする政権を大和朝廷（大和政権）」、これは育鵬社のほうがうまいんです。現代の流れをとらえています。要するに朝廷というのは、天皇を中心として律令制に基づいて政治を行う組織になっているんですね。だとすると大和朝廷というと、そこにもう天皇がいて、しかも組織がしっかりしているというイメージを植えつけさせるわけですね。通常は大和政権、あるいはヤマト王権と言われる。どうもこの2者は、天皇のしっかりした基盤を前の時期に持っていきたいという意図がありそうです。それは日本書紀の意図でもあるのかもしれませんが、そんな感じがします。個人的には。

ほかの5者はそういうことがない。では、天皇そのものをというわけですが、天皇については、東

京書籍は34ページ、教育出版は31ページ、それから清水書院が35ページ、帝国書院が31ページ、日本文教が35ページ、それから自由社が53ページ、あるいは58から59ページ、育鵬社が37ページです。自由社はむしろ53ページですか。いずれにしろ、後で見てください。何を言いたいかと言うと、天皇は、普通言われているのは、天武天皇のころなんですね。天皇が強大化して、非常に強くなる。それで律令制をしいて、さっきの朝廷じゃないけど、天皇を中心とする社会になっていく。だから通説は天武天皇のころというふうに言われているんですね。天皇という名前自身が、道教か何かの影響を受けて、その一番上か何かでしょう、詳しくは知らないんですが、とったんだと思います。ですから従来まで言われていた大王から天皇に変わったというのが、天武朝のころに起きる。ところがさっきの大和朝廷を使っちゃうと、これは推古朝に持っていきたいわけですよ。そういう方法、微妙な差があります。

それを通じて、聖徳太子の像が、さっきの帝国書院に出てきます。帝国書院の3ページをあけてください。これは帝国書院の歴史観を示したものなんですが、聖徳太子が11世紀のころ、18世紀のころ、20世紀のころ、お札になった聖徳太子の像と絵が出てきます。そうすると各時代によって物すごく変わってくる。要するに歴史観というのはその時代によって変わるんだということを、帝国書院は言いたいんでしょうね。では、変わってしまっているのかということもあるんでしょう。要するに考え方によって大きく変わる。この本自身がやろうとしていることは何かというと、タイムトラベルというのが書かれています。例えばタイムトラベルの何ページですかね、16、17ページというのが古い時代ですよ。これがだんだん変化していきます。26、27ページ、これが七、八世紀の様子ですね。それから次に46、47ページ、これが十三、四世紀のこの本が描く歴史観の像ですね。一番最後には228、229ページ。これがタイムトラベルの1960年代前半の様子というような、こういう両面取りの図で、その時々時代の歴史像、この本がえがく歴史像をとっていくというのが非常に、ほかの本にはないいい点だと思います。

それからもう一つ、どうしても言っておかなければいけないのは、やっぱり神話、伝承と記紀、風土記の話ですよ。要するに神話、伝承を非常に重視して、たしか4ページとっていたと思うんですが、それが自由社と育鵬社です。何か大々的にこのところを重視します。自由社が42ページから、神話が語る国の始まりから45ページまで、それが神話、伝承の話が出てきます。それから育鵬社は、44ページ、神話と歴史書の完成ということで、天平文化なんです、神話に見る我が国の話で、46、47ページという形でページ数を非常に割いています。要するに神話の内容を紹介します。

それとあと続いて多いのが、清水書院の43、45ページ。44、45ページで出雲風土記の話が出てきます。あと残り4はみんな軽いです。こんな分量を割かないです。だから4ページ近く、育鵬社と自由社、それからもう一方の4者がもっと簡単な、その中間が清水書院といったような構成になっています。それで内容をこんなに書く必要はあるのかというのが、個人的な考えです。

むしろ簡単だと言った帝国書院ですと、37ページに、半ページぐらいで終わってしまいます、帝国書院は。古代の神話ということで、天孫降臨の話とか、もちろん高千穂神楽の話、それから石見神楽の話、それから出雲の神話、そういう名前だけがぱっぱ出てくるわけですが、そういうのがまとめる格好で出てくるんです。ただ違う点はどういうことかと言うと、「これらの神話には天孫降臨や国生み神話など東アジアや太平洋地域の神話伝承と似ているものが多くありました」ということで、この日本の神話というのはそういう意味で大事だということは認識しているんですね。周辺と共通するものがあるということです。それでその例として、東西を結ぶ交通路と、それから女性像が2つ出てく

るんですね。トルファンで発見されたのかな。どこのかよくわからないんですが、それと正倉院の女性像とが非常に似ている。それはもしかすると交通網が既にもうあったのかもしれないということで、広がりですね。神話の内容を詳しく語るんじゃなくて、神話の性格が周辺とどうなんだろうという角度から書かれているのが帝国書院なんです。

僕はやっぱりそういうほうが良いと思うんですね。4ページかけて内容を書いたって、まあ、これは人の評価ですから何とも言えませんけど。僕は基本的に帝国書院のほうが良いというのはそういう意味であります。

それから、また我が国の領土ですか、現代の話もしないとね。我が国の領土の話ですが、これは帝国書院ですと、北方領土は235ページに出てきます。それから自由社は250ページです。冷戦。そうですね。それから育鵬社が221ページですかね。あるいは221ページもいいし、246ページのほうがわかりいいのかな。246ページが拉致なんですね。221ページが敗戦の話ですね。ここで北方領土を見てみますと、意外と育鵬社も自由社もさらっと書いてあるんですね。やっぱり地理の場合と書き手が違うんでしょうか。さらっと書いてある。要するに例えば自由社ですと、「ソ連は北方領土の国後、択捉などを不法占拠しているため、日ソ間では平和条約を提携できず、1956年10月に日ソ共同宣言で戦争状態を終結し、国交を回復した」という書き方ですね。それから育鵬社は、221ページの注で、「ソ連軍は終戦後に択捉以南に侵攻し、ソ連がロシアになった今日に至るまで不法占拠している」という格好で、北方領土に触れています。帝国書院ですと、一つは235ページに地図が載っています。それで235ページの右側に、「日本の国土は」云々となっていて、「ソ連は国交回復後も返還せずに未解決のままになっています」というのが帝国書院の書き方です。235ページの注の2ですね。

そういうふうに、交渉の間はロシア連邦に引き継がれていくというふうに、だからそういうことなんですけど、問題はむしろこういう基盤をつくったのは、日ソ中立条約を当時のソ連が一方的に破棄して、日本に入り込んだということに原因があるわけですよ。それはヤルタ会議の話なんですけれども、それがどう書かれているかというのが割と重要だと思うんですけどね。

それでヤルタ会談の話にいきますと、帝国書院は218、219ページです。それから自由社は236、237ページです。あと育鵬社は220、221ページです。それで、ヤルタ会議については、帝国書院からいくと、連邦国側は1945年2月にヤルタで会議を行い、ソ連の対日参戦とその見返りに千島列島をソ連の領土とすることなどの密約を結びました。7月のポツダムでの会議で、アメリカ、イギリス、中国の名前で日本の無条件降伏を促すようにしたというような形で、要するにそういうことをやったわけですね。あと実際に戦争の終結のところで、広島に原子爆弾が投下された後の8月8日、ソ連は日ソ中立条約を破って、満州や樺太などに攻め込んできたというような書き方なんですね。要するに、向こうが密約を結んだ、ということです。

それから自由社の書き方なんですけど、自由社はヤルタからポツダムまでのことについてはどう書いているのかというと、米英ソ3国の首脳が集まり、連合側側の戦後処理を話し合った。これがヤルタ会談だということです。アメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領はアメリカの負担を減らすため、ソ連の参戦を促し、求めた。スターリンはドイツとの戦争が終わってから3カ月後に対日参戦すると回答し、その代償として、日本領の南樺太と千島列島を要求し、両者は合意した。そういうふうにかかれている。

それから育鵬社は、ヤルタ会談は220ページですね。集まって、やっぱり同じようにその代償である日本領である、樺太の南半分と千島列島を要求した。要するにヤルタ会談で米英ソの3人が集まっ

て、日本参戦を、島あげるから、一部あげるからということで、密約を結んだと、こういうことがやっぱり帝国書院にも書いてあるけれども、2つの出版社も書いてあるということで、こういうところが一つのポイントかと思います。

それで、あと墨田区の情報ですね。墨田区の情報歴史だから、帝国書院が勝海舟とか、あるいは葛飾北斎とかそういうものがいろいろ取り入れられています。特に勝海舟については、西郷との対談ですね。そういうものが帝国書院でも取り入れられていますし、もちろん北斎も出てくるし、育鵬社もそうです。北斎も海舟も出てくる。ということでこの辺はそうですね。

それから自由社では、北斎については絵の説明で、海舟については文中に名前が出てくるということで、ちょっと軽やかなという気はしますね。

そんなことを考えて、先ほど言った歴史観まで指し示すような帝国書院がいいだろうというのが結論です。

○横井委員 私は、最初に考え方を述べさせていただきます。歴史をどう見るかということなんだけれども、社会の仕組みや考え方や文化について、現在の価値観を基準にして、過去を批判的に見ると、社会はいいほうに進化しているわけだから、現在から見れば過去はみんな不十分ですよ。だからそういうふうな視点でいくと、過去の日本は暗黒だった、昔は悪かったというふうになりがちなんです。もちろんそういうふうな客観的な見方も必要だけれども、当時の社会や文化、価値観や成熟度などを理解して、グローバルな目で比較してみると日本のすぐれたところがたくさんあるはずなんです。

いろいろな面で、自信を失っている今の若者たちに、日本に生まれ育ってよかったと思えるような義務教育をしたい。近隣諸国の痛みを理解するということは当然でありますけれども、単に謝罪をすればいいということでは、歴史を勉強したことにはならないので、そこに至る経緯を正しく理解することが社会の後世の発展になるものと私は思います。

今、見本本を見ると大きく2つの系列に分かれます。先ほど委員長がおっしゃったように、一つはこれまでの歴史教育の流れに沿ったもので、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教、清水書院、前から教科書をつくっている会社ですね。もう一つは自由社と育鵬社です。従来の教科書は、戦後の教育の結果、そういうふうな教科書がつくられるようになったわけで、戦後の教育は終戦直後のGHQが日本を占領している間に、日本が形づくられたと。特にその中で国際極東軍事裁判のウエートが非常に大きかったらと思うんです。日本人の精神構造をつくっていく上で。

とりあえず東京裁判のことについて。従来、各者がどう扱っていたかを見ると、帝国書院では230ページ、強調する太文字はなくて、1946年には戦争犯罪容疑者を裁く極東軍事裁判（東京裁判）が始まりました、だけで、その後どうなったかということは書いてありません。これはある意味うまく表現したんだなというふうに思います。それから清水書院は248ページ、「戦争を指導した責任者たちは、戦争犯罪人として極東国際軍事裁判にかけられた」と書いてあります。それから右上のほうに写真が載っております。日本文教は247ページ、本文には「戦争を推し進めた軍人や政治家の逮捕、裁判、極東国際軍事裁判」と書いてあって、本文はそれだけで、写真のキャプション⑤に「1948年、戦争を推し進めた軍人や政治家に対して、平和に対する罪などにより有罪判決が下されました」と書いてあります。平和に対する罪ですね。

教育出版は230ページ、これも「戦争の責任者を極東軍事裁判にかけて処罰しました」と書いてあります。東京書籍は227ページに、本文は「戦争犯罪人（戦犯）と見なした軍や政府などの指導者を極東国際軍事裁判（東京裁判）にかけ」と書いてあります。これも写真の説明に、「東条元首相など

28名が平和に対する罪を犯したA級戦犯として起訴され、病死者などを除く25名が有罪判決を受けました。またこれとは別に、戦争中に残虐行為をしたとされるBC級戦犯の裁判も行われました」と書いてあります。

これまでの5者の教科書を見てみると、かなり表現に差がありますよね。ごくあっさり書いてあるのもあれば、丁寧に書いてあるものもある。東京裁判をどう評価するかということは、従来からもいろいろ問題があったんだろうと思うんです。それについて、今までのような表現だと、戦争を開始した人たちはよほど悪いことをして、平和に対する罪で有罪になったということになりますけれども、この裁判自体が、これはご承知の方は言わずもがなのかもしれませんが、GHQ、連合軍の占領下にあったわけで、東京裁判は一見正規の手続にのっとった裁判のように見えるんだけど、戦勝国による裁判の形式をとった復讐のためのものですね。平和に対する罪を問われた人のことをA級戦犯と言うんですけれども、この当時、例えば東条さんが逮捕されたときに、何で逮捕されたかはわからないんですね。ほかのA級戦犯の人たちも同じであります。というのはまだ罪状がなかったからですね。裁判所開設時には国際公法にそういう罪はなかったんですね。平和に対する罪というのはない。通常の刑法犯や、それから国際公法でいう戦争犯罪については、B級、C級戦犯と普通に言われておりますから、それで裁判が起り得る。だけれども、A級戦犯の平和に対する罪というのはもともとなかったわけですから、なかったのを後から罪に問うというのは近代、現在の法律論からいうとあり得ない裁判ということになります。

ですから、この裁判はおかしい。判事のうちのインドのパール、パールとも言われますけれども、パール判事は全員無罪という判決を出すべきだという意見書を出したんですけれども、当時はそれは連合軍側にとっては非常に迷惑な意見だから当時は公開はされておられません。

それから東京裁判のときに、被告についての弁明書といいますが、有罪でないという証拠書類をたくさん提供したんだけど、連合軍に不利なものは却下、検事が認めなかったり、裁判長が却下したりして、かなりの証拠が取り上げられておられません。今の法律論でいえば、あり得ないような伝聞の証拠に基づいて、それはBC級戦犯についても同じなんだけれども、有罪宣告されているわけです。インドのパール判事の判決書というのは膨大なもので、現代講談社教養文庫のうんと厚い本、2冊分に相当するだけのものがあるのですけれども、国際法について堪能な人はこの方だけだったらしいんですね。あとの方たちはそうじゃない。ですから東京裁判を批判的に見る目、事実は事実として受けとめるけれども、それを本当に受け入れていいのかどうかという批判的に見る目が育たなければ、戦中はもとより戦前も正確に理解できなくなるんじゃないかというおそれがあります。

そういう点で、自由社と育鵬社はそれに言及しているということですね。東京裁判が今の民主的な国の法律の制度と相容れない裁判だったということに言及しております。これは当時からも言われておりました。パール判事だとか、日本の被告の弁護人になった人たちは強調しておりますし、いろいろところで東京裁判はおかしいんじゃないかというふうな説はあった。アメリカも民主的な国ですから、これはもしかすると行き過ぎかと思っていたこともあるらしいんですけれども、GHQが一番日本の占領については権力を持っておりまして、アメリカは関知できないということで、A級の有罪判決のうちの7人の死刑は執行されてしまいました。それからしばらくして、アメリカもソ連と対立するようになってきたから、死刑でなかったA級戦犯は、結局みんな途中で赦免されているということになりますし、その後、日本の政界で活躍された方もいるわけです。

東京裁判はナチスを裁くヨーロッパ戦線の裁判と対をなすように思われているけれども、ナチスド

イツは国策として民族せん滅、ジェノサイドをしようということですから、これは明らかに犯罪的ですね。通常の戦争ではあり得ないということですから、それは裁かれる。だからナチスの、ニュルンベルグ裁判と言われますけれども、それと東京裁判は本来、全く異質のものだというふうに考えなければいけないだろうなと思います。

そのほか、先ほど委員長のお話のあった神話や伝承の問題だとか、宗教観だとか天皇制の問題などもいっぱいお話ししたいことがあるんだけど、時間も時間ですから、結果だけ申し上げれば、歴史については歴史観が全く従来の5者と新しい2者は違うわけで、私は新しい2者がいいと思うんだけど、自由社は年表の問題もあるし、それからまたつい昨日でしたか、原爆の写真が、広島と書いてあるのが、実は長崎だったということがわかったということで、ちょっとそれは本を書く者にとっては余りにもどうかと思いますので、育鵬社が100%いいとは思えないんだけど、根本の歴史観については私は育鵬社の考え方でいいと思いますので、ぜひそちらを推薦したいです。

○高木委員長 推薦したいですか。

○鈴木委員 確かに過去が要するに不出来であるというようなことに対しては、私も反論したいと思っている。いろいろそういうページはないかと思って探したんですが、唯一女性委員なので、生活観を考えました。実はエコロジー。江戸時代というのは、今かなり知られていると思うんですけど、エコロジーとして非常にすぐれた時代であったというようなことが結構取り上げられておまして、例えば東京書籍は、128ページですが、もう時間がないのでそれぞれの教科書だけ言いますと、教育図書が122ページ、帝国書院が128から129ページ、育鵬社が115ページ、日本文教が130から131ページに、それぞれ江戸に見られる生活の工夫という形で書いているのですが、自由社と清水書院には全く表記がありません。この残った会社の中で考えますと、日本文教出版がやはりどうしても関西がほうが中心になるので、比叡山と東山なんですね。育鵬社がやっぱり非常に少ない。江戸のエコロジーの115ページのしかもちょっとぐらいしかない。東京書籍は128ページで、人々の暮らし、さまざまなリサイクルの例を出して、教育出版は123ページ、1ページ、リサイクルの知恵というふうになっています。

その点で、私が帝国書院を推したいと思っている理由は、128ページ、129ページを使って、外国の人が来て、何て日本という国は例えば非常にきれいであるとか、ほかの都市には及ばない清潔さを持っているとか、そういうような表現をしているのと同時に、129ページにちゃんと本所が出ています。こういう形で、自分たちが今住んでいるこの地域が江戸時代に、こういう工夫をしてきたんだという歴史の流れを知るという意味で、私は今の中学生に関して言えば、帝国書院が一番わかりやすさ、身近さを感じるのではないかと思いますので、私は帝国書院です。

○雁部委員 私はまず育鵬社なんですが、歴史上の人物を取り上げて理解させようとして、人物中心の歴史の紹介になっている点はよいのではないかと思います。特に古代の歴史の人物が。自由社はやはりちょっと似ている点がありまして、どちらかという育鵬社の方がよいのです。いかんせん、先ほど委員長がおっしゃったように、清水書院と自由社、育鵬社は神話についてかなり突っ込んだ話が書いてあって、神話とか宗教とかそういったものは掘り下げることに 대해서는高校以降でもよいのではないかと思います。あと帝国書院は、小学校で習った人物についての復習ができるようになっている点と、先ほど委員長がおっしゃったタイムトラベルというページで、歴史の流れがわかるようになっているという点がよいのではないかと思います。

教育出版については、近代の扱いが40%余り占めておまして、全体的な歴史の流れからいうとち

よっと偏っているかなと。東京書籍はワイド版で資料が大きくて、インパクトもありますし、また、短い時間の中で学習内容を振りかえられるようにしているという点はなかなかよいと思いました。清水書院は文章にまとめてみようという欄があって、知識の定着を図っているところがよいのではないかな。折り込みについてはちょっと使いにくそうな感じでしたので、この点は難点かなと。日本文教につきましては、鈴木委員からご指摘がありましたように、特集の部分についてはやはり西日本の事例が多いということ。経済活動からすれば、中部から、西、南のほうが発達なんですけれども、やはりこちらに住んでいる人間としてはこっちのほうを中心に取り上げてもらいたいというのが、自分なりの意見でございます。

全般的なバランスを見た限りでは、私も帝国書院がよいのではないかと思います。

○教育長 先ほど委員長からいろいろなお話をうかがいましたが、議論になるところだと思います。結論から申し上げますと、生徒の学びの観点から考えた場合は、帝国書院版が一番良いと思います。例えば44ページですが、単元のそれぞれの終わりに、地理や講義につなげることがかなり意識されている点だとか、あと51ページで、例えば地図から一応考えさせるような工夫がされていて、非常に良いと思います。それからもう一つは先ほど委員長や雁部委員からありました、タイムトラベルという生徒の興味を引くようなことで、歴史の流れを学ばせようとしている点、非常に良いと思いますので、そういった意味では私は帝国書院が子供の学びにとっては一番いいのかなというふうに思います。

○横井委員 この流れでいくと、やはり従来5者が主流になっているようなので、その中から選ぶとすれば、例えばヤルタ秘密協定について結構、帝国書院も詳しく書いておりますし、先ほど言った「東京裁判で平和に対する罪で有罪になりました」という書き方ではないですね。

○高木委員長 そうですね。

○横井委員 というところが、私に言わせれば評価できるということですので、5者の中では帝国書院ということ。

○高木委員長 だからここで歴史観というよりも、さっきの古代の扱いと、ヤルタ会議から以後の扱いですね。それが領土も絡んでくるし、平和外交の話も絡んでくるし、それはそれで面倒くさい話なんですね。だから近現代は今度は分けたというのは、それなりに僕は意味があると思うんです。時代が一括化されていなくて。ただ分けたがゆえに、公民との重複が多くなる。そういう別の問題を含んでいそうな気がしますね。指導要領はね。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、社会・歴史的分野について採択をしたいと思います。社会・歴史的分野は「株式会社帝国書院」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高木委員長 それでは、「株式会社帝国書院」を採択することに決定いたします。

それでは、ここで一たん休憩したいと思います。

それでは1時半に再開したいと思います。

(休憩)

○高木委員長 では、再開したいと思います。

一応午前中は社会の歴史的分野まで採択が終わりました。どうもありがとうございました。それでは引き続いて、社会の公民的分野について審議したいと思います。

指導室長、ご説明、よろしくお願いします。

○指導室長 社会の公民的分野の目標ですが、「個人の尊厳と人権の尊重の意義、民主主義に関する理解を深め、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培うこと、民主政治の意義や経済活動、現代の社会生活などについて自ら考えようとする態度を育てること、各国及び各国民の協力の重要性和、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させること、現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てること。」となっております。学習指導要領では、一つ目、現代社会における文化の意義や影響についての理解。見方や考え方の重視。二つ目は、我が国の伝統や文化に関心をもつこと。三つ目として、よりよい社会の形成に主体的に臨む態度の形成の重視が挙げられています。社会公民的分野の現在使用している教科書は「東京書籍株式会社」でございます。全7者からの採択をお願いします。

○高木委員長 どうもありがとうございました。公民も私のほうから口火を切らせていただきます。

公民は大きく4つの分野に分かれていまして、現代社会、平均で言うと14.8%です、ページ数の割合です。それで経済が28.1、政治が40.1、国際社会が17.1ということで、政治が4割、経済が3割、社会が3割と、そういう配置になっています。ここでも歴史のときと同じように、2者対5者、視点の差が出てきます。政治は領土の問題とか北朝鮮の拉致の問題とか長くなりそうですので、まとまってある経済の話からいきたいと思います。

経済は、高校、大学へ行くと経済をやるようになるんですが、その導入部分に当たるかと思います。そうするとそういう流れを考えると、経済で2つのことは何らかの格好である程度書いてもらわないと困るというふうになるかと思います。一つは需要供給曲線と価格の問題です。それは大学ですとミクロ経済学と言われる分野なんですが、そういう領域の話。それからもう一つはマクロ的な話で、財政金融政策、そういうものがもう一つ何らかの形で触れられていないと困るという。あるいは執筆者を見ますと、経済学者も入っているので、ただ経済学者が入っていても、中学生用にどの程度踏み込めるか、また別の議論だから、その書き方というのはかなり難しいんじゃないかと思います。先ほどの領土とか拉致の話という、政治的な話ですね。それについては今日的な問題なので、そのウエートをどうするかといったような問題があるかと思います。経済の話で、さっき言った2つの点のうち、需給曲線と価格の話为例にとります。

結論から言いますと教育出版がいいだろうというのが私の推薦するところです。教育出版は需要と価格は128から133ページ、そこでは価格の持つ意味、市場の長所と短所と。それから自由社は112から113ページです。育鵬社ですと122、123ページです。それでほかの出版社についても全部見たので、全部取り扱っています。どこでもいいんですが、例えば東京書籍ですと122ページからですから、市場経済の仕組みということで出ております。教育出版ではもちろんタイトルにありますように、市場の長所、短所で、まず物に対する需要、それから供給、それがマーケット、市場で一緒になってというか、抽象的な市場ですけれども、経済学で扱いますからね。そこで価格が決まるということが、例えば教育出版の130ページでは書かれています。この点はどこの出版社でも同じような形で、いろいろ

ろな形で書いてあります。だから需要曲線、供給曲線、均衡価格という形では129ページのほうがわかりいいですかね。そういう形で書かれています。

自由社は112、113ページなんですけど、これも見てもらえばわかるように同じような図が出てきます。育鵬社もそうですね。ところが1つ違う点は、教育出版の、これは長所だと思うんですが、132、133ページに需要曲線、供給曲線って何だろうという形でこれがシフトしているという面が出ています。これはほかの者にはないことで、非常に長所になっております。それであとこれに準じて、企業の話が出てくるんですが、教育出版ですとそれに続く生産の仕組みと企業、金融という格好で134ページから出てきます。自由社のほうですと、企業が116ページから、その間にある114ページを見てもらえばわかるように、市場経済と計画経済という格好で、今は計画経済はないわけですからね。かつてはあったんでしょうけど。今は混合経済と言われまして、要するに市場的な要素も入るし、計画的な要素も入る。日本も中国もそうです。だからそういう意味でこんなのは要らないんじゃないかと思うんだけど、そういうのが載っている。

それから自由社が変わっているのは、独占の説明がないにもかかわらず独禁法の条文が最後、資料に載っている。一体どこで使うのかなと思います。それから育鵬社は122、123ページ、先ほど言いましたようにいわゆる需給曲線と均衡価格はありますが、変化については何ら触れていないという問題があります。企業の活動は教育出版が134から137まで扱われています。そこでは私企業、公企業、それも例示が出ていて、あと株式会社の仕組みが出ています。それから大企業、中小企業の話が出ています。

大企業、中小企業もそうなんですけど、市場の中の社会的責任という格好で、教育出版では142ページから143ページなんですけど、金融機関の責任、それから消費者としての責任という格好で、経済主体の責任の話が出てきます。一方、自由社というのは何かというと、株式会社が中心なんですけど、株価とかそういうたぐいの株式市場との関係が非常に薄いんですね。もちろん株式会社が何かということがわかるように、例えば118、119ページというのは企業がだれのものかということ、一つの工夫ではあるんですが、やっぱり市場の話がないと、要するに株式も有価証券に対する需給で決まっているわけですよ。需要曲線、供給曲線で。そういう話が出てこない。だけど、教育出版は140、141ページでそれがきっちり出てきます。育鵬社はどうかというと、市場価格の話とともに、114から119ページです。要するに企業の活動を扱います。そのときに一番重要なのは、競争と独占とか、こういうものがきっちり書いてあるというのが、ここは長所なんですけど、育鵬社の欠点は株式でも株価や何かの話が全然出てこないというのが教育出版と比べるとかなり劣るということになります。

要するに需要・供給という概念が回転しないんですね。その点、教育出版はほかと比べてもよく書いています。それと141ページを見ると、投資行動というのがありますが、株式や何かでもそうです。出資したりするのはそうなんですけれども、という投資行動と株の売買、需給だけに頼る株の売買による投機的な行動とは違うというのが、教育出版がきっちりと書かれているという点も、育鵬社や自由社よりすぐれているという点だと思います。

それからもう一つの柱である財政政策と金融政策ですが、教育出版は139ページですか、日銀の役割ですね。それからその後財政と政府の役割があって、最後に経済政策として152、153ページが出ています。ここがどの程度書けるかというのは物すごい難しいんですね。中学生がやっています。要するに景気対策なんですけど、財政政策と金融政策、153ページの下の方に、このように日本銀行が行う金融政策と政府が行う財政政策を適切に組み合わせることによって、経済の安定化を図る。これは

非常に重要なことで、こういうことをきっちり書いておいてもらわないと困るわけですよ。

自由社は何て書いてあるかという、126、127ページです。景気変動と書いてあるんです。でも政策的側面がはっきりしないですね。ここがポイントというところで市場経済には景気変動が起こる。政府には景気変動を調整する重要な役割がある。それから日本銀行は日本銀行券を発行し、銀行の銀行として経済活動の重要な役割を果たしているというふうに書いてあるんですが、利子率が上がるとどうなるかとか、それから一種の要するに金融政策というようなことがはっきり書かれていないと困るんですよ。例えば教育出版153ページの経済政策というところの、例えばというところがありますね。日本銀行はインフレになると持っている国債を売って社会に流通する資金を回収すると。そうするとお金の貸し借りができにくくなるため、行き過ぎた好況は抑えることができるか、こういうたぐいの具体的な形がこの教育出版のほうがかっちり書かれています。

それで育鵬社なんですが、育鵬社は136ページは財政の話なんですが、財政の話を一通り書けてはいるんですけども、政府の役割についてどうなっているのかというのが、教育出版だと政府の役割はこれとこれとこれですと、3つちゃんと書かれていて、それから解説が始まるんですね。育鵬社では余りそういうことなく、136ページから139ページにかけては書かれているというので、やっぱり教育出版みたいに最初にそういうのを入れたほうがいいと思うんですよ。

それから次に景気の変動と経済政策というのが、さっき言った教出の152、153ページに対応して、育鵬社は140ページから148ページです。ここに物価が、景気がいいとき大雑把に言って、景気がいいときにはインフレになり、景気が悪くなるとデフレになると。そうするとそのために何か政策とうまくいかないということが書かれているんですが、ところが重要な点は、景気が悪いときにはデフレになる。今の日本経済みたいなものだけ。いうのはある一定の仮定が必要なんですけれども、その点152ページに脚注の1というのがありますね。教育出版のほう。そこでは「インフレは他の原因からも起こります」と。「日本では1973年に原油が大幅に値上がりして」云々というふうになって、このインフレと不景気が同居する場合があるんですね。だからここに書いてあるのは、ほかに書いてあるのと違うんですよ。そういう現象が。そういうのを抑えるようなことが教出にはちゃんと触れられている。育鵬社にはそれはない。

これ以外にいろいろな経済の話ってあるんですけど、例えば社会保障の4本柱とって、社会保険とか公衆衛生とか、そういう話、いろいろな話、あります。でもそれは暗記用にはいいけど、経済の本質論からはみ出ると言うと怒られちゃうんだけど、要するに経済の原理論とは多少違います。経済は、これ以上いろいろなことを話してもしょうがないので、あとそれ以外のいろいろな資料から見ます。一つは東京都の教育調査を見ると、今度の学習新指導要領で重視されている言語活動の箇所ですね。それは東京都が調査してくれているんですが、それによると、東京書籍が125カ所で一番多いです。次いで教育出版が94カ所、少ないほうは自由社が一番少なくて5カ所です。清水書院が11カ所、育鵬社が15カ所というふうに物すごい差があるんです。言語活動、この種の分野って割と必要なんじゃないかと思えますけどね。それは主観的な判断だと言われればそれまでなんですが。

それから、領域の話しをみたいと思います。歴史でも、あるいは地理でも問題になりましたけれども、領域をめぐる問題、これは2者対5者の対立構造みたいで、自由社と育鵬社が多いです。それは政治云々もいいんですが、東京都がちゃんと調べてくれて、東京都の我が国の領域をめぐる扱いです。これを見ますと、東京都の調査の149ページから152ページまであります。それを見てもらうと、これ引用の仕方にもよるので、教育出版も結構頑張っているというふうにも読めますけれども、い

わゆるここでは帝国書院がさらっとしている。これを見るとわかりますけどね。それから割といろいろ書いているのが、例えば教育出版ですと195ページですよ。そこに領土をめぐるそのくらいのことが書かれている。文章の書き方が一つ、腰が引けているか、それともきっちり書いているか、という判断はあるかだと思います。それから自由社は扱っている量が多いというのはおわかりだと思います。自由社はこれで見ると、145、148、149ページというのが、145ページはずっと範囲が中心、それから148、149ページは北方領土と竹島、尖閣諸島も含めて3つ並べて3点セットにしている。それから育鵬社が156、157ページです。そういう形でこれもかなりの程度割いています。

この辺の書き方の問題だと思うんですけども、この3者だけ見ても、いわゆる2つ、自由社と育鵬社がボリュームが多いというのがここでおわかりいただいているとおります。ただこの点、今日的だから重視すればそうかという、そうもいかないところが教科書採択の一つのポイントになります。というのは経済だったら、教育出版のほうがいいですよ。

それから拉致の話ですね。拉致の話も東京都の調査に載っています。拉致の話は取り上げる量がかなり減ってきたなという印象を持ちます。そこに154ページ、東京都の委員会の、これに一覧として載っています。

それからもう一つ、東京都の調査で155、156ページにあると思うんですが、適切な課題を設けて行う学習というのがあります。要するにレポート作成がどれがやりいいかという話です。それで全体的なもので見ると、多分日文が一番、215ページから228ページに書いてありますけれども、例題が出てるのでこれは非常にわかりやすい。では、ほかのはだめかというとなんかそうじゃない。教育出版も206ページから211ページ、それから自由社は184ページから193ページなんですが、自由社は中心がレポートよりディベートになっちゃっているんです。これはちょっと問題かなと思います。それから育鵬社は185ページから191ページで、ちょっと箇条書き的なんですね。教育出版のほうがいいかという、例はあるんですが、手順が中心になっているからどうかということがなきにしもあらず。やっぱり日本文教が一番ページ数をとっていますね。

あとこういうのを書くに当たって、やっぱり用語の解説が必要なんです、それだと東京書籍と教育出版が出ているということですね。

それと人権と公共の福祉及び権利と義務、基本的人権と公共の福祉ですね。この問題は基本中の基本ですから、すべての会社が扱っています。ただし扱い方が違います。例えば基本的人権はあるんですが、それを公共の福祉、憲法12条、13条がそれを制約するということに、それをどういうふうに折り合いをつけるかということが最大のポイントになります。例えば教育出版だと60、61ページ、ここなんです。これは自由と公共の福祉と人権ということが60ページに掲げられていますが、要するに制約を受ける。例えば具体例として、61ページにあるようになっています。だからここでは人権の制限が61ページにありますように、人権の制限がどこまで許されるのかという問題は、必要な範囲で最小限に行われているかどうかで判断するというのが、この教育出版61ページの話です。自由社は公共の福祉が逆から出てくるんです。それで憲法12条を例にとり、国民は常に公共の福祉のために、これを利用する責任を負うというように、公共の福祉を何となく重視しているような書き筋です。育鵬社も同じように、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任があるということ、46、47ページで主張します。ただ、育鵬社の47ページに、やっぱり制限がどんなものがあるかという例が述べられているのいいと思います。

それから権利と義務に関しては、三大義務についてはみんな述べられていますけれども、特に教育出

版の場合には公務員は憲法を尊重し、これを擁護する義務があるなんていうことが明記されています。だから三大義務に加えてそういうことがある。ほか日本文教もそういうことが述べられています。68ページですか。自由社は三大義務しか書いていないし、育鵬社も三大義務しか書いていないから、書き方が弱いというような感じです。

ということで、結論としては教育出版を推すと。全体的に見て教育出版を推薦するというふうに考えます。

○横井委員 私は先ほどの歴史との関係で、どういう見ていくかというふうなことを考えると、結論は育鵬社を推薦したいなと思っておりますが、やはりこれもいろいろ問題があることは事実であります。育鵬社で取り上げられている、先ほどもお話に出た北朝鮮拉致問題については、かなり丁寧に書いてある。基本的人権の尊重ということは重要なんだけど、まさに今拉致されている人たちは基本的人権を侵害されていることがわかっているのに、主権国家である日本が何もできないというのは非常に心外だという意味で、そういうことを常に意識するという意味では、育鵬社は繰り返し繰り返しいろいろなところで出ているようなんですね。

それから一番重要なのは、基本的人権と公共の福祉の関係ですけれども、どちらの者もどれも大事だというふうに言っておりますが、ニュアンスが微妙に違います。基本的人権は尊重されるべきだけれども、公共の福祉の範囲内ということになります。今の日本の現状を考えたときに、公共の福祉の視点がなくて、個人の人権が強く言われ過ぎるんだとしたら、そういったニュアンス的に公共の福祉という視点もあるんだよということを強調するということはありかなという気はするんですね。

もう一つ一番大きいところは、育鵬社は墨田区がかなり全面に載っておりますね。

○高木委員長 載っています。133ページ、岡野さん。墨田区情報が載っているのが教育出版と育鵬社と東京書籍、この3つです。

○横井委員 育鵬社の133ページはものづくりの職人さんということで、糖尿病患者のための刺しても痛くない注射針。そういったことも含めて、育鵬社もありかなということ。

○鈴木委員 私はまた、公民ゆえに男女平等のところをちょっと見てみました。これがなかなかおもしろくて、実はかなりさらっと皆さん書かれておまして、例えば日本文教はページ数を言うとまた長くなってしまいますので、50ページ、51ページで、男性の育児参加が低い理由というのを取り上げています。帝国書院は42ページ、43ページなんですね。それもすごく少ないです、帝国書院。それと清水書院はすごく少なく、37ページのみです。教育出版が44ページ、45ページで、育児休暇のことを書いていて、なおかつ男女の格差数値というのがあって、そういう意味では一番力を入れていたのは育鵬社なんですね。ところが育鵬社が非常に長く男女の平等と家族の価値ということで書いていて、ちょっと書いている内容に理解できないわけではないし、いいんですけど、例えば個人が家族より優先されるべきだとみなされるようになると、家族の一体感が失われていくおそれがありますとか、読んでいてちょっと違和感があったんです。それで私なりになぜだろうと思ったところ、実は自由社と帝国書院と育鵬社と清水書院は執筆者に女性がいない。公民にもかかわらず、執筆者に女性がいないというのは、研究者にいないとは思えない現状があるものですから、これはどうなんだろうと思いました。

それともう一つ、「家庭」と書くか、「家族」と書くかという問題なんですけど、今、実は保育者の養成課程においても、家族援助論は家庭支援論に変わったんですね。「家族」ではなく、「家庭」という言い方になってきている。そういう意味では教育出版は家庭や地域というような形で、男女平

等参画社会基本法は取り上げられているので、私としては女性の執筆者が多い教育出版を推したいと思っています。

○雁部委員 私は全般的なお話になるんですが、東京書籍はやはりワイド版でインパクトがあつていいのかなど。学習内容の確認はさらに内容を深めた工夫ができています。あとは題材によって話し合うという項目を設けている。第1章ですが、私たちの生活と現代社会というところでは、身近な話題を取り上げて勉強しやすくしているという点がよいかと思います。

教育出版については、模擬裁判について取り上げられているところがこれから必要な部分なので、そこがよいかなど。清水書院は生活と経済に重点を置いているんですが、いかんせん全体的な情報量は少ない。帝国書院は、環境に関する項目で、とらえ方が消費者の視点でとらえてあるところはよいと思います。日本文教はやはり先ほどからずっと言っているんですが、西日本の事例が多いということと、原発についてもちゃんと触れてはいるんですけども、その辺もほかに比べるとちょっと偏りがあるかなど。自由社は東日本大震災で活躍しました自衛隊についてかなり詳しく載っております。東日本大震災後活躍している自衛隊についても理解する必要があるのではないかとということで、載っているということはよいことだと思います。

それと教育出版にはディベートについて簡単に載っていますが、自由社は188ページ以降にディベートの進行と実践例が載っていて、かなりディベートについては勉強ができるのではないかと。これは巻末の資料のほうなので、学校で取り上げるかどうかは別問題になってくると思うんですが。

育鵬社は細かいことなんですけど、133ページに墨田区の岡野工業さんの岡野さんのコメントが載っている。その辺がよいかなどと思います。ただ全体的なバランスとか、いろいろ取り上げると、それぞれ表記に問題はあつたものの、やはり委員長が薦めている教育出版がいいのかなと思います。

○教育長 簡潔に述べさせてもらいます。

現在使用している東京書籍版も学習指導要領に沿った形で、バランスよくまとまっているとは思いますが、教育出版が非常に良いと思ったのは、例えば8ページ、9ページが、上のほうですけど、読み解こうということで、グラフだとか、図版でいろいろ考えさせようとしているところがあります。それから今の雁部委員のほうからありました、ページ26で、ディスカッション、今は欧米だとか、隣の韓国、中国と比べて、子供たちが自分の立場を述べたり、説明するというようなディベートの能力、非常に弱いんじゃないかと言われているので、育鵬社にもそういうのがありますが、これは本体の中に入っているということで非常に良いと思います。

3点目は先ほども例示として示されていた132、133ページに、読んで深く考えるとあります。ここでは需要曲線と供給曲線は何だろうと。結構難しい話で、本文でやってまた押さえる的に、ここで深く考えさせるという点があつて、ほかの教科書にない点で非常に良いと思いますので、私も教育出版が良いというふうに思います。

○高木委員長 どうもありがとうございました。

皆さんのお話を伺って、教育出版でよろしいでしょうか。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、社会・公民的分野について採択をしたいと思つています。社会・公民的分野は「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思つていますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高木委員長 それでは、「教育出版株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続

きまして、地図について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○指導室長 地図につきましては、学習指導要領には、地図を十分に活用して、地理学習のより一層の充実を図ることが示されております。また、地理の学習だけでなく、歴史や公民の学習でも調べ学習の資料として活用がのぞまれております。本区の生徒の資料活用の力を育成することを考慮してご審議の上、全2者からの採択をお願いします。現在使用している教科書は「株式会社帝国書院」でございます。

○高木委員長 ありがとうございます。

それでは地図についても私のほうが口火を切らせていただきます。

実は昨年、小学校の教科書採択があって、地図がやはり東京書籍と帝国書院の2者だったんですね。そのときに両方に注文を出したわけです。注文に対して、今年は多分同じ地図かどうかはわかりません。昨年は小学生用ですからね。そのときに、帝国書院について言えば、関係するところは首都圏のところなんです。要するに首都圏が一番使うと思ったから、小学生のはね。それでページで言うと109ページ、110ページ。これが帝国書院です。それからこの地図が同じかどうか覚えていないんですが、採択が終わった後、東京書籍にかけ合ったんですが、その地図がこれかどうかはわかりませんけれど、91ページから93ページにかけて、東京書籍の地図です。これをお話するのが一番簡単だと思うんです。

そのときに、帝国書院には何を言ったかという、一つはこの図では清澄庭園と、向島百花園が載っています。去年の地図では、帝国書院では向島百花園が載っていなかったんですね。だから文化財保護法の中に、庭園の部というのがあります。庭園にもランクらしいものがあるって、国の特別指定というのが一番上です。それから国指定、都道府県指定、市区町村指定と。庭園というのは名勝と同時に史跡も持っているんで、単独指定として名勝指定と史跡指定。それから名勝かつ史跡指定。だから例えば国の特別史跡だと江戸城址。江戸城の皇居のあの付近にありますけど。それから六義園というのは、国の特別名勝なんですね。あれは単一指定です。浜離宮になると国の特別名勝、史跡と二重指定になります。

これは向島百花園は2番手クラスですから、国指定の名勝かつ史跡なんですね。清澄庭園は都の名勝なんです。だから清澄が載っていて、何で向島百花園が載らないのかといたら、帝国書院は我々は面積を考慮した。こういう地図だって、裏に学術的な背景があるというふうに決まっていますよね。今回は向島百花園が載っている。もう一つ、右側にこういう地図が書けるのは、幕末の地図、②ですね。書けるのは帝国書院のいい点なんです。昨年の教科書採択で日光街道は今の中央通りと言うんですか、日本橋から真っ直ぐ北へ抜けて上野へ出て、南千住、北千住へ抜けていくという、そういう図が書いてある。だからそれ違うって。だって上野というのは徳川幕府にとって聖地なんです。徳川家康と関係が深い東照宮があり、しかも天海大僧正の寛永寺があって、そんなところを、平時でないと行きにくいから困ることは困るんだけど。だけど街道として売り出すかという問題はありますよね。だから本当の街道はこの小伝馬町を抜けて、浅草を抜けて、山谷を抜けて、三ノ輪を抜けて、それで行くんだと言ったんです。そうしたら、帝国書院はいろいろな考えがあると。でも、そしたら今度はこの地図を見てください。中央通りが消えて、僕が言ったとおりになった。やっぱりちゃんと

言わないとだめなんだ。だからそういうわけですぐ対応したということで、帝国書院は非常に評価するんです。

それからこっちの東京書籍も、去年終わった後、指導室の方にお願ひして、大学、今、大学誘致するからじゃないんですが、大学表示について何とかならないかという話をしたんです。そうしたら検討をさせてくださいというお話でしたけれど。例えば東京書籍の93ページを見ると、丸に文と書いてあるのが、大学なんですよ。大学名がついているのが、何と東京大学と早稲田大学だけ。あと丸文で、ここにいる人たちの大学はどこ。そういう意味でこんな地図になるのか。だから去年の時点で言っているんだけど、まだ対応が難しかったのかどうか知りませんが、東大と早稲田。あとは丸文です。業者の対応である程度、何かいろいろな事情があったのかもしれませんが、そういう状況です。この地図を見る限り、もうよほどいい点がないと東京書籍、なかなかとりにくい雰囲気ですよ。やっぱり2つの大学だったら書かないほうがましですよ。

それで全体図なんですけど、全体図ですと日本の国土というのがまずどのような形で書かれているかということになるかと思ひます。それで東京書籍は49ページ。本文に書いてもいいんですよ。だけど、僕はやっぱり帝国書院の巻末が一番わかりいいと思うんですよ、こういうのを書くときには。本文だとどこからあけていいか迷ひますよね。だからそういう意味では帝国書院のほうがいいと思ひます。

それから目次なんですけれども、目次をあけていただきますと、どういうふうになっているかというところ、東京書籍は4というところ、4ページという意味ですか、そこで世界1部、2部と分かれているんですよ。それでページ数だけが書いてあるんです。大きくくりで書いてある。だから地図と資料という格好なんですけど、そういうのが大きくくりだけでどこに何があるのかわかりにくい、この目次は。それに比べると、帝国書院のほうの表紙のほうの左側に、全部書いてありますね。何がどこ。そういう意味で見やすい。

それから今度は中身なんですけど、中身については例えば、今の全体まで含まないですが、東京書籍の21、22、23、24ページ、要するにここは何を示しているかというところ、韓国と中国と日本、その取り扱いなんです。それが帝国書院と東京書籍の大きな違いは多分一長一短なんでしょうけど、東京書籍のほうは22ページで、行政区分があつて、中国の。それに対して帝国書院のほうは台湾が詳しく載せてある。これはどう考えるかによると思ひます。ある意味で帝国書院が反乱している。いや、どっちが主役かわからない。それから韓国の地図も東京書籍の24ページと、帝国書院の27ページ、どっちがいいかと言つたら、僕は帝国書院のほうがいいと思ひます。単に大きいだけでなく、東京書籍のほうがウルルン島でとまっちゃっているんですよ。帝国書籍のほうはちゃんと竹島まで入っている。というので、やっぱり配慮しているわけですよ。それから例えば宗教の聖地、東京書籍で言うと30ページあたりですか。宗教の聖地なんですけど、帝国の36ページの聖地ですよ。キリスト教、イスラム教、ユダヤ教ですよ。帝国のほうの方がわかりいいと思ひ、やっぱりはっきりして。それからアメリカについては両者、要するに東京書籍、非常に以前より地図がよくなっています。だからほとんど差がないんですよ、アメリカに関しては。東書は41から44ページまでアメリカを扱っています。それで帝国は55ページから60ページまで扱っていますが、例えば東京書籍の42ページと、帝国書院の56ページを比べてください。ほとんど差がなく。日本列島が両方とも載っていますけど、以前は帝国書院だけだったと思ひますが、東京書籍もこういう技術が発達したんだらうと思ひますが、ちゃんと同緯度、同縮尺の日本が載っていて、大きさを確認するというようなことで、アメリカについてはほとんど差が

ない。

それから、資料も、以前は帝国書院が詳しかった云々というのがありましたけれども、今は東京書籍も、資料が豊富に入ってきます。だからいわゆる1部、2部。1部というのは目次をあけていただきますと、「東京書籍の1部というのは一般的な地図や本の資料。2部はそれらを補う地域と、詳しい資料というような形で、資料がふえている。」それから統計表も物すごくふえました。だからだんだんこの2つの地図が遜色ないように近づいていますが、でも東京の大学、だめですね。ということで、全体的にまだ帝国書院のほうが上だという判断をして、帝国書院を推薦します。

○鈴木委員 私も帝国書院がいいなと思う理由がありまして、写真がところどころにあって、それが生活と結びついていて、例えば植林であるとか、それからエコであるとかいうようなことで、やっぱり中学校に入って生徒さん、それから小学校からの流れの中で、身近な生活観が載っているんじゃないかなと思いました。帝国書院がよろしいのではないかなと思いました。

○横井委員 昨年度の行きがかりから言うと、ちゃんと誠意を持って訂正してくれたという意味で、帝国書院でいいと思います。ただ個人的な感覚の問題だけれども、紙質と色使いは私は東京書籍のほうが好きです。光らなくて、見やすいのかなという気がしますが、内容面そのほかを考えて帝国書院がいいと思います。

○雁部委員 私も帝国書院がよいと思います。59ページとか、立体的な図が載っていて、斜め横から見た図が随所に載っているということと、やはり地図である以上は大きくて見やすいというのが一番なので、この辺がよいかなと思います。やはり横井委員が言われたように、私は色的には東京書籍のほうの色が落ち着いていてよいのかなという感じがします。大体、バランス的には帝国書院のほうがいだろうと思います。

○教育長 帝国書院版のほうは地図そのものが見やすいかなという気がします。それから全体的にバランスの面でも良いと思っているので、帝国書院版で結構だと思います。

○高木委員長 ほかに何かつけ加えることはございますでしょうか。

それではありがとうございます。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、地図について採択をしたいと思います。地図は「株式会社帝国書院」を採択することにしたと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高木委員長 それでは、「株式会社帝国書院」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、数学について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○指導室長 数学の目標は「数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。」となっております。学習指導要領では、体験に基づく実感的な理解や表、式、グラフなどを用いて変化や対応の様子を調べて、その特徴を考えることが重視されています。また、本区の生徒の実態を考えると、基礎的・基本的な内容の習得に対して十分配慮がなされ、且つ補充的な学習や発展的な学習が適切に取り扱える教科書がのぞまれます。数学の現在使用している教科書は「東京書籍株式会社」でございまして、全7者からの採択をお願いします。

○高木委員長 どうもありがとうございました。それでは委員の皆さん、ご意見、よろしくお願いたします。

○鈴木委員 それでは今回私から説明をさせてください。

7者ございまして、老体ではなく、老脳にむちを打って、一応私も問題を7者分、何題か解かせていただきました。まず最初に、私が配慮したポイントというのは、やっぱり読み取る力をつけたいという思いがありました。本区の生徒の現状に合わせて、学校間の格差、あるいは個人間の格差、それぞれに対応できるようにしたいということと、読み取る力をつけていきたいというポイントがありました。そのためには、どうしたらいいかという、一つは算数から数学へという、中1ギャップのときに抽象的な物事を理解していく勉強の仕方というようなこともちゃんと気がついてほしいと思いました。そのために導入が丁寧であるかということが大切だと考えます。そして、もう一つは論理的に考える問題が多いかということ。さらに読解力を身につけ、基礎にも対応し、発展にも対応し、つまり数学が好きな子というのはどんどん自分で解いていきたいという思いを持つものですから、そういう子供たちへの対応も考えていかななくてはいけないと考えました。

中学1年の最初のページを見ていただきますと、それぞれ、「この本を使って学習する皆さんへ」とか、「中学1年生の皆さんへ」という形で、各者ともここに関しては非常に親切に書いてあります。教育出版がどちらかといえば、図解チャートでまとめようという形になって、終わったら、振り返ってノートにまとめてみましようねという感じに割とかわいく書いてあり、学校図書と啓林館が、「保護者の方」へと載っております。我が身を振り返ってみてもそうなのですが、家庭学習が非常に大切な領域でもありますので、例えば保護者会であるとか、数学の授業参観の折などにもちょっとぐらい触れられるといいのかなと思いました。あとノートの転記みたいなことが書いてあるのが、東京書籍と啓林館で、そういうようなことを統合して考えた結果、東京書籍と啓林館の2者が導入に対して非常に親切であることと、それから極めて標準的で、大切な基本問題というのを取り扱っていると思いました。

その中で幾つかちょっと問題を解いていた中で、東京書籍というのは、ちょっと確認という欄があるんですけども、それが実はすごく簡単だなと思いました。発展的な問題についての扱いがそう多くはなかったように思います。

その点、啓林館のほう振り返りという形で、何回もやってみようということで、ノートの工夫から始まり、どんなことがわかるかというようなことで、丁寧に説明しながら、なおかつ最後の章末問題が文章題で読み取ることが必要となるような問題を多く出しているなと思いました。例えば啓林館ですと、1年生の242、243ページぐらいですと、これも表から読み取れることというようなことで、読み取る数学というようなことが書いてあります。こういう図表から何かを読み取っていくというのは、例えばほかの教科との横断的な配慮という意味から考えると、例えばこれは社会でも使えるだろうと思いますし、中学1年生の最初に、5ページぐらい、学習の進め方の中で、人の話をきちんと聞こうとか、ほかの人の意見と自分の意見を比べながら聞こうとか、そういうような聞く態度、それから人と話す態度みたいな、そういうようなところ。それから、同じ1年生の教科書で言うと、252ページ、253ページ、時差の求め方です。これなども他教科との連携というようなことが、ある意味考えられてつくられたのではないかと思います。

他者のいいところを言っていくと、例えば大日本は側注に振り返りがあり、学校図書は目次に既習学年の振り返りマークがありというような、それぞれいいところはあるのですが、最終的には東京書

籍か啓林館の2者に絞りました。その中で、何度も繰り返し基本的なところを書きつつも、なおかつ発展問題に文章題等を多く取り入れているという意味では、啓林館が今回よろしいのではないかなという結論に達しました。

ということで、私としては啓林館を薦めたいと思います。よろしく願いいたします。

○横井委員 私も今のお話の啓林館でいいと思います。数学を理解する上で大事なことは、ノートを正しくとるということなんだけれども、ノートの書き方について、東京書籍と啓林館が、毎学年1ページずつ使って、これは今鈴木委員がおっしゃったとおりであります。東京書籍と啓林館のノートの書き方を見ると、ページの大きさも啓林館のほうが大きいし、使い方として、1年のときから分数をきちんと2行に分けてあるとか、区切りのところ、1行あけるとか、きちっとした書き方を指導するようになっておりますので、子供たちにとっては非常に重要なことだと思います。これが結構疎かになってしまいうんですね。それから啓林館は、これもお話に出てきていることかもしれませんが、基礎的な練習問題があると、その右に補充する問題を小さい字で書いてある。ページ数が書いてあり、後ろの、力をつけようという問題に飛ばせるようになっております。ですから一つの授業をやっている中で、子供たちが基礎的な練習問題をやっているときに、終わってしまった子はそこを見て、自分で後ろのページをやるということの配慮もよくなされていると思います。他者でもそういう工夫があります。

もう一つ、これはいたって個人的なんだけど、3年の三平方の定理があります。どの者も証明は斜辺を一辺とする正方形をつくるか、あるいはその短い辺2つ足した、AプラスBを一辺とする正方形の中を折り込んで引き算するというのは、最初は図形の処理で、あとは代数的な式の計算で、それは明快でわかりやすい。もう一つ重要なのが、やはり目で見て確かに面積が同じなんだということだと思う。今のは数、 A^2 とか C^2 の問題ですよ。啓林は3年の210ページに、これは発展なんだけれども、この問題が図形を等積変形するのと、三角形の合同を組み合わせて証明する。代数的に理解しても、これをやらないとイメージがわからない。確かに面積が同じなんだ。数字の上じゃなくてね。この証明の仕方が非常によく、私は物すごく感激した記憶があります。

そのやり方を紹介しているのは、啓林館とあと数研と学校図書で非常にいいです。一つのやり方だけじゃなくて、いろいろなやり方がある。いろいろな理解の仕方がある。ある子供にとっては図形もこの証明で解けるんだと、本当にイメージ的に納得できるというようなことは大事なことだと思うので、丁寧に扱っているものにしたり。それから補充問題ですとかいい。

たった一つ気になったのは、3年の付録に当たるこれがよくわからない。きっと円周角も同じだということの説明するのに、多分組み立てれば納得できるんでしょうけど、組み立てないとよくわからない。その程度で、あとは啓林館で異議なしということです。

○雁部委員 私は全体的に、東京書籍は、新学習指導要領の趣旨に忠実な構成になっておりまして、数学の有用性というのが実感できる工夫がなされているかなと思います。東京書籍もそうなんですけど、各学年の子供たちにメッセージを入れているところが啓林館にはあるので、これもよいか。基礎的内容と発展が分かれていて、習熟度別に応じた内容になっており、小学校からの導入、または中学、高校にもつながるような内容になっているのも啓林館のよいところですね。

大日本さんは、ページ数が多いんですが、ちょっと写真等が少ないです。巻末の資料は大変充実しています。応用ということに関しては自分で進んで勉強する子にはすごくいい本だと思いますけど、墨田の、家庭学習がなかなか定着していない子供たちには、難しいと感じるのかな。学校図書は有

用性の実感に関しては東京書籍と同じような感じで、おもしろいなと思った点が、249ページのランドルト環についての説明でした。あと1年生の31ページで、記号とかの由来が載っているのもまたおもしろいなと思います。

教育出版は全体的な難易度が高かったのも、墨田区の子供にはちょっと難しいかなということと、あと個人的に3年生の2ページと9ページに、たまたま私と同じ町会に住んでいる、墨田区のデザイナーで高橋さんという方が考えたカレンダーが載っているのがいいと思います。数研出版は、1年で小学校の振り返りに力を入れていて、丁寧ではありますが、練習問題が中心なので、数学的な活動の楽しさとか、よさを実感するのはちょっと難しいかなと。日本文教も同じような感じですかね。シンプルなんですけど、ページ数も少なく、ちょっとわかりづらいうことと、全体的なバランスを考えると、やはり啓林館がよいと思いました。

○高木委員長 僕も啓林館がいいと思います。

要するに基礎的なことと、それから発展的なことに適する教科書は何がいいのかというのは、多分分かれ目なんだろうと思います。そのときに、両方めくれないわけだから、両方段階を追ってやると、またページ数がふえてしまうわけだから、その辺どの辺で折り合いをつけるかというのは、先ほど鈴木委員にありましたように、啓林館が一番その辺のバランスをとっているように思いました。

ただ、黄金比で、東京書籍で写真がありましたよね。東京書籍、黄金比、5対8というので、この例の有名な神奈川沖浪裏、北斎の絵が大きく載っている。このくらい出るといい。本当に少ないですからね。大きいんですね。ただそれは本質とは違うので、墨田区に縁があるということだけです。

それでもう一つ、これも教科書選定審議会の答申書を見ておきますと、因数分解の解法及び解の公式、ここでやがて二次方程式につながるわけですが、その因数分解による解法と解の公式とどっちを先にやるかという話の一つと、それからもう一つ、円と三平方の定理、どっちを先にやるかということが各者によってそれぞれ違う。だから解ければいいという考え方もありますけど、やっぱりそれぞれの会社とそのほうが理解しやすいということを考えているんだということ、教科書を見ながら逆に教えられたという感じがします。

僕の感じでは、ですから東京書籍にしる、啓林館にしても解の公式及び因数分解という順で、二次方程式につないでいく。それで三平方の定理についても、啓林館は円から三平方の定理につないでいくということですからね。

○横井委員 その点についてのことで。私も二次方程式の解の公式は、単純に因数分解ができてものが先にあって、それができない場合に解の公式を使うというふうに、自分も多分そう習ってきたからだと思うんですが、今回いろいろ見ていて逆のところもありますよね。

○高木委員長 そうです。

○横井委員 これもありだなという気がしましたので、それはどちらもありで、先生方がこれは逆のほうがいいとお思いならば逆になることも可能だと思います。解の公式が先というのも十分にあり得ると思います。一般化しておくということですね。

○高木委員長 そうですね。三平方の定理は多分中学段階の最後のまとめとしていいと思うんですよね。だからこの証明方法というのは、いろいろなものがありますということと、自分で考えさせるような問題があるのがいいんだと思うんです。啓林館、158ページから始まるんでしょうか。いろいろなものが出ていますね。三平方の定理の約束、ひっくり返した話ですけども、そういうのか、あと応用とか、そういうふうな形で、何度も何度も出てきて、しっかり覚えさせようというよう

な考えが後ろにあるように思うんです。ですから、啓林館は発達段階に合わせて、それに合ったようなできる子はこの問題、できない子はじゃこっちというような、そういう関係が出ているという印象で、啓林館で構わないと思います。

○**教育長** 東京書籍も、非常にバランスがいいと思いますが、皆さんがそういう見解でいらっしゃると思いますので啓林館でいいと思います。

○**高木委員長** 僕も昔から三平方の定理見て、中学校に入ったというイメージが。だからあれができないとだめなんですね。

ありがとうございました。それでは数学について採択をいたします。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、数学について採択をしたいと思います。数学は「株式会社新興出版社啓林館」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**高木委員長** それでは、「新興出版社啓林館」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、理科について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○**指導室長** 理科の目標は、「自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。」となっております。いわゆる第一分野が科学的・物理的な物質やエネルギーに関する事物・現象を学習するのに対し、第二分野では地学や生物とそれを取り巻く自然の事物・現象、自然環境の保全に寄与する態度を育て、総合的に見ることができるようになることが目的でございます。ただし、今回の教科書では従来の第一分野、第二分野という分野別の構成ではなく、一分野・二分野を取り混ぜた学年別の構成となっておりますので、ご留意ください。新しい学習指導要領による主な変更点ですが、知的好奇心や探究心、科学的に調べる能力や態度の育成が一層重視されております。また、自然環境が少ない本区の現状を考えますと生徒の直接の観察や実験が限定されることも予想されます。採択に当たりましては、動植物の資料や写真がわかりやすく、生徒が取り扱いやすい紙面構成となっている点等も視点のひとつとして、考慮していただき採択していただければと思います。現在使用している教科書は「株式会社新興出版啓林館」でございます。全5者からの採択をお願いします。

○**高木委員長** ありがとうございました。

それでは委員の皆さん、ご意見よろしく願いいたします。

○**横井委員** では、私のほうから。私は結論から申し上げますと、学校図書がいいかなと思いましたが。先ほど室長からのお話にもありましたけれども、科学的に考えるということは実験や観察に基づいて結果をどうまとめるか。結果から何を見い出すかということなんだけれども、子供たち、私も時々授業を見せていただくことがありますけれども、実験観察すること自体が非常に好むんですね。それをまとめるという段階になりますと、どうまとめていいかわからない。言われたとおりに書くことはできるけれども、あるいはワークシートになっておりますから、ワークシートの中に書くことはできるけれども、指定がなければ書くことができない。そういう意味で、観察や実験をした後にどうまとめるかということが細かくわかるような内容がいいかなというふうに思います。

そうすると各教科書をざっと見ていただきますとわかるんですけども、観察実験があるページにあるとしますと、その裏のページに結果について、どの者も書いてあるんですけども、教育出版と学校図

書が実験からわかることとかいうふうなこと、明確に示してあるんですね。教育出版の場合は枠組みで、実験からわかることということが書かれています。それから学校図書の場合は、左側の欄外に色の見出しみたいな形で、結果とか考察とまとめということが書いてあって、今書かれている文章が結果なのか、結果からわかったことなのか、考察なのか、それからまたわかったことに向かっていくことがわかるようになってきているという意味では、学校図書のほうが少し丁寧になっております。

この2者を比べた場合に、実験観察の手順についてはどちらの者もきちっと書かれてはいるんですけども、ページ数が教育出版のほうが学校図書より少し少ない。その分、実験の図が小さかったり、それから、指示の文字が小さかったりするんですね。学校図書のほうが観察や実験の図版だとか文字がはっきりしていて見やすくなっています。

例えば具体的に教材で見えますと、1年の植物教材というのがあります。学校図書は140ページ、教育出版は131ページですね。啓林館は29ページ、大日本は37ページからです。東京書籍は29ページなんですが、このどれも葉のつくりを調べる実験の手順が書いてあるんですけども、かみそりを使って葉っぱを薄くはぐという顕微鏡で見る切片をつくる作業なんですけども、どちらもそれなりに工夫はされておりますけれども、教育出版は少し版が小さくなっております。よく何をするのか見にくいところがあります。他者は見やすい。その結果が次のページにあるわけですけども、次のページを開いていただくと、観察の結果を書くんですけども、それぞれ文章でまとめてあって、写真の拡大図がありますけれども、学校図書だけスケッチのAというのが載っているんですね。子供たち、観察しましょうと書いてあって、観察すると普通はスケッチすることになりますけれども、どの程度書き込んでいいのかということが多分わからない。適当にそれらしく書く。手書きで書く場合に、この程度まで書けるといいよという模範が示されているのが学校図書だということでもあります。

ほかにも細かい例がたくさんあるんですけども、たくさん挙げてもしようがないので、もう一つだけ。2年生に、科学の分野で、物質を電気で分解する、水の電気分解というのがあります。順序不同になりますが、教育出版では8ページ、それから東京書籍は10ページ、大日本は18ページ、啓林館は120ページ、学校図書は18ページですね。学校図書は今私が推薦したんですけど、その実験装置の図がほかとちょっと違うと思うんですよ。他者はみんなH型のガラス装置を使っております。それから黄色い台の上に何かプラスチック製の水槽が載っているようなものが例として出ております。みんな共通して同じようなものが載っています。学校図書だけが違うんです。違う装置もあるよという例で19ページの上のほうと下のほうに、同じような図が載っておりますけれども、メインで使うものは違いますよね。

私、これを見ていて、すごいことだなと思ったのは、これは電気を通して水を分解するわけです。プラスとマイマスのほうに水素と酸素を発生するということから、水を分解するんです。このH型の装置を使ったり、プラスチックの台の上に載っている、見本が載っているものが、これは仕掛けがあって、仕掛けに電気を通して水素と酸素が発生したということはわかるんだけど、何をやったかわかるかなと思う。

学校図書の場合は水に電極が入っていて、そこから出たものを試験管で集めるという原理にのっとった仕掛けなんです。だから仕掛けをただやればいんじゃないくて、水を電気分解するんだという意味を理解する上では、この学校図書の装置のほうが合理的なんですね。ただ実際には先生方はこの仕掛けがあるかどうかわかりませんし、それから水酸化ナトリウムの水溶液の中に、場合によってはゴムの手袋を使って指を突っ込まなければいけないので無理かもしれない。多分仕掛けがあると思うん

ですよ。それはそれでいいんだけど、仕掛けに電気を通して何か発生したということを理解するんじゃないくて、もともとはこういうことをやりたいんだけど、この装置よりもこれのほうが便利だからこれを使うよという意味では、学校図書のもともとのねらいに即した実験装置を見るということに非常に意味があるかなと思うんですね。何をやるかがわかる。複雑な装置が先にあると、そちらに目が行ってしまって、結果はわかるけど、何をやったのかがわからないということにもなりかねないという意味で、この学校図書の実験装置は他者と全然違うけれども、おもしろい点がある。この装置を使うかどうかは別としても、これの意味を理解して、子供たちが実験に取り組めば理解が深まるかなというふうに感じました。

それから、1年生の力学なんだけれども、啓林館の1年、193ページをいいですか。学校図書は100ページです。教育出版は94ページです。今この3者だけちょっと見ていただきますが、実は残りは教育出版とほぼ同じ書き方をしているんですけども、圧力の単位、Paと書いてパスカルと読みますけれども、圧力の単位はPaで、教育出版を見ると「力の当たる面積平方メートル分の面を垂直に推すN」と書いてありますね。啓林館は「圧力(N/m²)」と書いてあって、その下に「1N/m²は1Pa」と書いてある。これ、書いてあることは逆ですよ。教育出版で定義していることと、それから啓林館で定義している定義の仕方は、Paがどっちにあるか、右にあるか、左にあるかという意味で逆なんですよ。学校図書はどうかというと、学校図書も圧力左N/m²と書いてあって、それが圧力だと書いてあって、Paって書いていない。Paは右に欄外で書いてある。ほかの3者は教育出版とほぼ同じですよ。圧力というのはまずパスカルでという単位がありますと。パスカルというのは1平方メートルにかかる力ですというふうなことで、パスカルを言っているわけです。厳密には逆なんですよ。1平方メートル当たりにかかる力が圧力なんです。それをN/m²と書くんじゃないし、書きにくいので、それをPaと書くというのが単位を導入する考え方、基本的に。だから考え方としては、啓林館や学校図書の考え方が圧力についての定義としてはいい。

啓林館の左側の注、193ページの真ん中辺の注に、パスカルじゃなくて、N/m²を主に使っていくと書いてあるんですね。だからパスカルというのは補助単位といいますか、おまけなんで、本当はN/m²だということを言っている。

なぜ私がそんな細かいことを言ったかということ、子供たちは意味がわからないままに単位を覚えさせられてしまって、次々に新しい単位が出てくる。もう面倒くさくて、嫌だなどというふうなことになってしまうわけで、だからもとはN/m²だということで、ニュートンはその前に学習しておりまして、平方メートルは小学生から知っている単位ですから、それを組み合わせたものだという理解をする上では、この啓林館や学校図書の行き方のほうが子供の思考を、無駄に複雑にしないで済むという意味でいいんじゃないかなと。普通は、パスカルをここで使いますよというふうに言ってしまったほうが楽ではあるけれども、子供たちの考えを深める、思考を節約する上では、啓林館か学校図書の行き方がいいかなと思います。

そういったこともいろいろ含めて、啓林館もいろいろ工夫されておりまして、例えばマイノートというのが挟まれておりますから、いいんじゃないかというふうな考え方もありますけれども、このマイノートにある問題が少し単純すぎるというか、別冊にしてある意味はあるけれども、問題の質としてはまあまあかなと思います。同じようなレベルの問題は学校図書の巻末にも、字は小さいですし、そのまま書き込みはできないけれどもあります。

私は学校図書を推薦したいと思っております。

○鈴木委員 私は1年から3年までの理科の流れというのをちょっと見てみたんですけども、東京書籍と大日本と、それから啓林館がすべて生物から始まるんですね。教育出版と学校図書は科学から始まる。確かに教育出版さんと学校図書は、9月から始まるということもあるんでしょうけれども、そこは結構丁寧に書いているんじゃないかと思って、例えば学校図書さんですと、いいなと思ったところは、6ページ、7ページ、身の回りの物質というところで、子供たちの生活空間の中で、理科としてこういうものが必要なんですよ、サイエンスなんですよということをメッセージとして残しているのはいいなと思いました。3ページには教科書の使い方、それから先ほど横井委員もおっしゃってありましたけれども、レポートのまとめ方みたいなことも、14ページ、15ページなんかにも丁寧に書いてあるので、教育出版か学校図書かと思ったんですが、学校図書で今回やってみたらどうだろうかと思っております。

なので、横井委員と同じ学校図書でよろしいのではないかという感じをしています。

○雁部委員 私はまた全体的なところから。東京書籍は小中高の学習の流れがかなりスムーズに行くように配慮されていると思います。東京書籍の1年生、ちょっと気になったのが、ワインを使って実験というのが巻末にも出てくるんですけど、この辺はどうかなのにはありました。大日本はページ数が多くて情報が豊富なんですけど、これも先ほどの数学と同じで、かなり応用分野で勉強が好きな子が使うのにはいいのかなという感じです。暮らしの中での科学の有用性というのを、身近な題材で示しているところがいいと思います。これも資料なんですけれど、生徒の興味を引く工夫がなされているのですが、応用分野になってしまいますので、自学自習というか、自分で勉強する子にはいいとは思いますが。なかなか墨田区の子供達がそこまでいくかどうかというのはちょっと疑問があるのかなと。

啓林館はやはりマイノートによって勉強、学習の繰り返しをして、基本から応用の定着を図っているんですけど、やはり2冊ということがちょっと使いづらいのかなと。レポートの書き方の例は具体的でわかりやすいと思います。あとは科学偉人伝とか科学の広場で実生活との関連が書かれていて、実生活の中の科学ということを取り上げていていいと思います。あと教育出版さんは小学校からの関連とこれからの見通しを持っているところに配慮しているようで、学力定着のため要点のチェック、基本から応用まで配置されていて、環境問題というか、環境の話題が多く取り上げられているのかなと。

学校図書はやはり理科を学習することの意義がわかりやすく書かれていて、先ほど横井委員が言われた実験の結果、考察のまとめ、解答まで書かれている。ただ私がどうしてもここで気になるのは、実験というのはどうなるかわからないところが本筋になるので、結果が書いてあると別に実験しなくてもいいだろうという考え方になってしまうと思います。この辺がどうなのかなと。これはもう学校の先生の配慮になるからしょうがないと思うんですが、全体的にわかりやすく全部書いてあるということで、私も学校図書がいいかなと思います。

○教育長 これまで使用している啓林館ですけども、先ほど話がありましたけれども、別冊のマイノートの工夫が良いと私は思います。科学の広場など、コラボ的な内容が充実している点も良いのですが、先ほど横井委員のご指摘の点などを考慮しますと、私も学校図書を推したいと思います。

○高木委員長 これはまず第1分野、第2分野と、それから学年別という、これが組み合わせられているので、生徒のほうが、並んでいる順にやられるんだとは思いますが、どういう感じで受けとめるかなというのが一つ気になります。これはこの配列順にやるんですか。

○横井委員 いや、やりません。

○高木委員長 やらないですかね。この辺がちょっと気になったんですが。

○横井委員 特に植物教材は時間がかかります。花が咲いていたり、葉っぱが育っているのが春から夏にかけてですから、順序を変えてやることになるだろうと思うんです。

○高木委員長 そうですか。だからその辺が非常に気になって、要するに前に書いてあったのを忘れたところにやってもしょうがないわけだし、だからその辺の工夫がどうなるかというのは、これはむしろ教える先生方の話なのかもしれないですね。

それからもう一つはそういう接続の話とともに、最初に見たときは啓林館が2つあって、マイノートなんていうのがあって、練習問題もそこそこあるじゃないですか。段階別にあるんですよ、この練習問題もね、よく見ると。だからいいかなと思ったんですが、学校図書の場合、先ほどの横井委員のお話だと、この程度の練習問題が、学校図書の単元末の問題と大差ないというお話なので、それなら2冊に分ける必要はないですから、これでも構わないということだと思います。要するに学習のまとめとか、単元末の問題というのが自力でできる、そういうスタイルの教科書がいいんだろうと思います。そういうことを考えますと、学校図書で構わないと思います。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、理科について採択をしたいと思います。理科は「学校図書株式会社」を採択することにしたと思います。ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○高木委員長 それでは、「学校図書株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、音楽・一般について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○指導室長 音楽科の目標は「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を育み、豊かな情操を養うこと」となっております。採択にあたりましては、「感性や情操を育む」ことが目標とされている教科の特性から、生徒の興味関心を引く紙面構成であることや、実際の音楽の活動や鑑賞がしやすいように工夫されているなどの点をご考慮いただき、ご審議いただければと思います。音楽・一般の現在使用している教科書は、株式会社教育芸術社でございます。全2者からの採択をお願いします。

○高木委員長 ありがとうございます。どなたか委員の方、ご意見ございますでしょうか。

○横井委員 音楽については、どちらもそれぞれ一長一短があって、かなり難しいなと思っております。例えば1年生の音楽・一般のほう、目次を開いていただくと、これはなれの問題もありましょから、教育芸術社のほうは目次に、例えば一番最初はForever、拍の流れに乗って明るい声で歌おうというふうなねらいが書かれております。その後ろにアイコンで、リズムと旋律と音色を楽しむというふうな趣旨のアイコンがついております。教育出版には全体としては音楽の要素をとらえながらというふうなことがありますけれども、それはありません。

次のページをあけると、どちらも次のページをあけていただきたいんですが、そうすると教育芸術社は最初の拍の流れに乗って明るい声で歌おうの次に、Foreverと書いてあるわけですが、教育出版のほうは歌詞の内容を生かしてという目次に書いてあるのと同じもの下に、この歌を学習するときのねらいが2行にわたって書かれております。

それから、教育出版の右ページを見ていただくと、緑色の枠の中に2分休符とテヌートというのがあります。この記号について、これが新出なんじゃないかな。記号について意識するようにということ、教育出版ですけれど74ページが一番左に、この教科書の中で取り扱っている中学校で新しく習う

用語や記号などを示しますというふうに書いてありますから、2分休符とテヌートは新しく出てきておりますが、これは教育芸術社の場合には、右ページの一番下に小さく、これとこれは68ページを見ろとか、71ページを見ろとか書いてある。説明していないわけではない。どちらが見やすいかという問題なんだろうと思うんですね。

創作についてもそれぞれ工夫されておまして、教育芸術社の場合は7ページにいろいろな音符が載っていて、それを使って、適当に並べてリズムをつくろうみたいなことなんだろうと思うんですね。それはそれで面白いと思うんで、教育出版では47ページに、言葉にリズムをつけるという。だから、後に行けばいろいろやるんですけども、導入の段階は教育芸術社はまず音符ありきで、音符を適当に並べたものでリズムをつくって、それを楽しもうという面白いアプローチになっています。教育出版は言葉のリズムを見つけ出して楽しむということになっています。ですからリズムをつくる場合、そしてメロディーをつくる場合も、教育出版は50ページに、日本語の抑揚を生かした旋律をつくろうとなっていて、言葉が先にあるんですね。教育芸術社は12、13ページで、「主人は冷たい土の中」のリズムと旋律を考えて、今度そのリズムで自分の旋律をつくろうとか、言葉がまだ書いていない。だからそういう意味じゃ、全く違うアプローチの仕方かなと思って、難しいなというふうに思いました。

○雁部委員 教育芸術社のほうは、子供たちの独創性というか、姿勢をうまく引き出すような形の教材の使い方になっております。今の子供たちは自分で歌ったりとか、リズムということに関しては進んでしまっているんですね。直感的な勉強ができるというのが教育芸術社ですね。やはり今、横井委員がおっしゃった7ページのリズムゲームというなんていうのは、決められたことをやるのではなくて、自分で選んでいって、自分の好きなリズムをつくるという、こういうところは恐らく子供たちは喜んでやるんじゃないかと思います。

それから教育出版のほうは、一応カラーユニバーサルデザインに配慮はしているということと、歌詞をイメージする背景が割と詳しく載っている。ただこの辺はイメージの問題なので、例えば17ページの「夏の思い出」の尾瀬などは、実際に背景が載って、これはいいのかなとは思いますが。写真の使い方がうまいなど。やはり同じ意見ですが教育芸術社の13ページのリズムを使って、旋律をつくろうなんていうところは、創作という分野において、子供たちは多分喜んでやるのではないかと。全体的に見て、教育芸術社のほうがよいのかなという感じがしました。

○鈴木委員 同じようにリズムのことが話題になっているので、リズムから話をすると、リズムというのは実は確かに言葉を上に載せていくおもしろさというのはあるんですが、ですので、教育出版の47ページの言葉のつなげ方を工夫して、4小節の曲をつくろうという、意外と実はこれは難しいなと思います。

教育芸術社のほうはどういう方法をとるかという、確かに雁部委員がおっしゃったように、クリエートというか、創作をすごく重視していて、28ページ、29ページのように、音楽が音符だけではなくて、音を情景の言葉でストーリーをつくろうとか、そういう近づいてくる目の前を通る、遠ざかっていくという変化をどう重ね合わせるかというような、音楽のとらえ方が広いような気がいたします。

したがって、甲乙、本当につけがたいのですが、教育芸術社を上手に使ってやっていったら、音楽が好きな子がふえるんじゃないかという気がいたします。

○教育長 私も本当にどっちをとったらいいか迷います。とりわけ教育出版の4ページ、5ページに花の歌のバックに、これは間違いなく我が墨田区の写真、桜並木の写真が出ているので非常に捨てがた

いのですけれども、ただ内容的には教育芸術社の、とりわけ目標のところですね。非常に明確に書かれているかなど、目次ですけれども。それから記号でも学習の窓口のところいろいろな記号が明示されているということで、子供たちからはわかりやすく工夫されているように思いますので教育芸術社のほうが良いというのが、私の意見です。

○**横井委員** 私も、花の写真が非常にきれいだと思います。もったいないと思っていたんですが、実は、2・3下の一番後ろに、「君が代」、「仰げば尊し」があるんですね、両方に。教育芸術社は64ページで、教育出版は72ページです。同じようだけど、よく見ると違うんですよ。「仰げば尊し」が教育出版は1番と2番。教育芸術社は1、2、3となっております、教育出版は教育芸術社の2が抜けているんですね。2番の抜けている歌詞は、「互いにむつみし、日ごろの恩。わかる後にもやよ忘るな。身を立て、名を上げ、やよ励めよ」ですね。恐らく教育出版はそこが嫌だったんじゃないかと思うんですよ。そういう考え方もないわけじゃないけれども、私は「身を立て、名を上げ」だけじゃいけないんだけど、身を立て名を上げて、「やよ励めよ」というところは重要だと思うんで、これは大事な歌詞だと思います。

○**高木委員長** 教育芸術のほうがいいという。

○**横井委員** というのもありかなど。

○**高木委員長** 今、東京都が調査した、いわゆる鑑賞ですね、どんな曲が鑑賞として両者選ばれているかということなんですが、日本のより外国のほうが多いんです。両者ともね。ところが選ばれている日本の数というのは大体似ているんですね、両方ともね。例えば箏曲の「六段の調」なんていうのは、両方に載っているとか、だから要するに差が接近しているんですよ。鑑賞についてはね。ただ選んでいる外国の国はいろいろあって。だから日本の音楽一般の鑑賞というよりも、海外の鑑賞のほうがはるかに多くなっている。これは教育芸術社、教育出版両方とも同じなんです。だからそれほど多分差がつかないと、その点では思うんですが、やっぱり何か鑑賞についても音楽関係である一定の、さっきの花じゃないけれど、そういうのが出てくるといいなという感じがします。

○**横井委員** 鑑賞曲というのは難しい。一般化できないですよ。人によりましようしね。

○**高木委員長** これ、枠はあるんですか。たとえば、日本の曲は大体何曲くらいとか。いや、僕もこれ全然、音楽の分野はわかりませんから、教育芸術社でもいいと思っております。さっき「仰げば尊し」に差があるというのは気がつかないんですが、おもしろい。抜いちゃうという。本当は抜いちゃいけないんだけど。

○**横井委員** そうですね。普通の著作権法ではいけないんだけど、教科書だけはその点、融通が多分きくんじゃないかと思います。

○**高木委員長** 音楽・一般について採択します。皆さんの意見を伺うと、迷いもあるけれど、音楽・一般の教科書は教育芸術社で構わないというふうに受け取りました。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、音楽・一般について採択をしたいと思います。音楽・一般は「株式会社教育芸術社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**高木委員長** それでは、「株式会社教育芸術社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、音楽・器楽合奏について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○**指導室長** 音楽科の目標につきましては、先ほど説明させていただきました。器楽の指導事項は1つ

目、曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。2つ目、楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。3つ目、声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること、となっております。現在使用している教科書は教育出版株式会社となっております。全2者からの採択をお願いします。

○高木委員長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆さん、ご意見よろしくお願ひいたします。

○横井委員 では、私が口火を切らせていただきます。これも大変難しいですね。

まず、目次をあけていただきます。教育芸術社は2枚あけてください。大きな違いがありまして、教育芸術社はアルトリコーダー、ギターから始まっております。教育出版は和楽器から始まっております。これがまず大きな違いです。それから費やされているページ数を見てみますと、教育芸術社は和楽器が26ページ、リコーダー、ギターが21ページですね。教育出版は和楽器が20ページで、リコーダー、ギターが26ページでちょうどページ数の割合としては逆転しております。ですからページで言えばどちらを重視しているかという、和楽器を重視しているのが教育芸術社、リコーダー、ギターというふだん子供たちの比較的身近にある楽器をメインにすえているのが教育出版ということになります。

教育出版はそのほかに打楽器、ラテンパーカッションというのがついておりまして、マンボに挑戦しようとか、それが6ページ与えてあります。実際に音楽の時間に費やされる時間の割合から考えると、教育出版のほうが適当かなという気がするんですけども、ただ逆に和楽器は小学校でも最近やっておりますから、余り身近でないだけに丁寧に指導する必要があるという意味で、和楽器にページ数を費やすのも意味が十分にあることだろうと思います。

教育芸術社の4ページと、それから教育出版の24ページを比べていただきたいんですけども、ここにアルトリコーダーの解説が載っておりますが、この解説の写真や図がどうも教育芸術社の方が明瞭といいますか。技法については教育出版のほう丁寧に書かれているところがあるんですけども、図は教育芸術社の方が見やすいところがあります。これも随分悩みましたけれども、やはりこれは教育芸術社がいいかなと。ほかの写真もそうなんです。全体に教育出版はやや小さ目で見にくいというか、はっきりしないところがありますので、教育芸術社がはっきりしているところが多いので、見た目だけでいいやというわけにはいかないんですけども、教育芸術社がいいかなと思います。

○鈴木委員 私も器楽に関しては教育芸術社がいいと思います。例えば教育出版だと36ページ、教育芸術社だと21ページで、「大きな古時計」があるのですが、外国曲ではあるんですけども、日本でも童謡としても定着していると思いますが、リコーダーとギターとどっちが合っているかと言われると、やっぱりギターかなと。その教育の内容からいってもそうかなという感じがいたします。というような選曲に関して無理がないなという意味で、教育芸術社の方がいいかなと思いました。

○雁部委員 まず表紙1ページをめくっていただくと、教育出版社のほうは打楽器の和太鼓の神様と言われている林英哲さんが載っています。私はファンなので、これを見たら、こちらにしたいのですが、教育芸術社のほうは若手の活躍している方々の4名の写真が載っておりまして、なおかつ中身も、先ほど載ってございましたリコーダー奏者が、4ページのアルトリコーダーのモデルになるなど、それぞれ皆さん、本人がモデルになって載っているところがとてもよいと思います。中学生なので、できれば年齢的にも身近な方々が活躍しているというところを見ると、よし、私も僕もという気持ちにはなるのではないかな。

また、小学校からの流れからいきますと、リコーダーをほとんどの子供ができるので、教育芸術社はやはりアルトはつきますけど、リコーダーから入っているということで、導入のしやすさはあるのかなど。教育出版のほうは和楽器を最初に取り上げているのですが、いきなりほとんど使えないだろうという琴から入っています。順番にやる必要はないかとは思いますが、素直にページをめくれば最初からということになりますので、教育芸術社のほうが自然に入りやすいのかなと思います。

○**教育長** これも甲乙つけがたいんですけども、私も雁部委員が言われたように、小学校との接続の観点から、やっぱり教育芸術社のリコーダーでつながっているということの評価して、教育芸術社を推したいと思います。

○**高木委員長** そうですね。根拠はと言われると大変苦しいんですが、先ほど確かに小学校との連携性から考えれば、リコーダーから入るほうがいいわけで、教育芸術社のほうがいいだろうと思います。それからもう一つ、さっき鑑賞について、日本の歌が少ないんですよ。外国の歌が多いんですけどね。これを調べるとね。和楽器が教育出版は少なく、リコーダーが多いんですね。その辺の判断をどう考えるか。そんなことは大した話じゃないと考えるのは、それはそれでいいんですが、和楽器のページ数が教育出版が20ページと教育芸術社が26ページです。多いと見るか、少ないと見るか。それで日本の歌が少ないから和楽器が少なくていいとも読めるし、そうじゃなくて、日本の歌をふやしていくんだという視点も多分考えられるんだと思うんですね、逆に言うと。だからほかの教科が、伝承とか日本の文化とか、そういうのを歌っているわけですね。特に社会科なんてそうでしたね。

だからそうなる、そういうことに軸点を置いている、ページ数が多いと言われました教育芸術社で構わないというふうに思います。

ほかに何か追加するご意見をお持ちの方、いらっしゃいますでしょうか。

それではどうもありがとうございました。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書採択について」のうち、音楽・器楽について採択をしたいと思います。音楽・器楽は「株式会社教育芸術社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○**高木委員長** それでは、「株式会社教育芸術社」を採択することに決定いたします。

ここで10分ほど休憩をとりたいと思います。

（休憩）

○**高木委員長** では、再開したいと思います。

引き続きまして、美術について審議をいたします。

指導室長、ご説明お願いいたします。

○**指導室長** 美術の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、美術を愛好する心情と美に対する感性を育て、造形的な創造活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う」となっております。採択に当たりましては、「感性や情操を育む」ことが目標とされている教科の特性から生徒の興味や関心を引く鑑賞教材の掲載や、表現や造形的な活動の動機付けとなる紙面構成等をご考慮いただきご審議いただければと思います。美術の現在使用している教科書は日本文教株式会社でございます。全3者からの採択をお願いします。

○**高木委員長** ありがとうございます。

それでは、委員の皆さん、ご意見よろしくをお願いします。

○**教育長** それぞれの特徴ですが、まず開隆堂出版からです。開隆堂出版の2ページ、3ページ、4ページ、芸術1のガイダンス1ですけれども、学習の目当てや内容を構造的にわかりやすく示し、学習欄の見通しを持たせるようにしているようです。表現領域ではやや彫刻の教材が、デザインや、工芸の教材より多く取り上げられている特徴があります。また、作品のつくり方、技法のバリエーションなどわかりやすく説明されていることから、子供たちが学習の内容のイメージがわかりやすいというふうに考えられます。また、鑑賞領域では、日本美術や伝統文化については深く、各国の美術についても広く触れられていると思います。

それでページ16を見ていただきたいと思うんですけれども、一例ですけれども、生徒がつくった作品が多く、掲載が多く、生徒から親しみやすいのも特徴となっております。ただちょっと小さな図版が多くて、学習指導としては見づらいのかなと。紙の質もやや薄くて、また印刷がやや不鮮明に見える点が気になる点かと思えます。

続きまして、光村図書出版です。ページ4からですけど、とりわけページ5からの部分です。さまざまなジャンルで、銅版からとか、グラフィックデザイナー、さまざまなジャンルの造形作家等の言葉をもとにして美術について考えられるような内容となっております。表現領域ではやや彫刻の教材がデザインや工芸の教材より多く取り上げられています。また、鑑賞領域では、教材に仕様を合わせるなどして造形表現と言語表現を結びつける工夫がされています。さらに現在活躍している作家や身近な工芸品やデザインを取り上げるなど、先ほどもちょっと紹介しましたがけれども、生徒に興味関心を抱かせる教材が組まれていますけれども、映像表現など新たな表現領域の取り上げが少なく、また生徒が制作過程の中で発想を広げ、新たな表現を生み出すような教材が少ないように感じられました。印刷、色調は鮮やかで明るく、鮮明な点は非常に、もともとそういう会社ですから良いと思います。

最後に日本文教出版です。これも2ページ、表現の始まりや色、光などスポットを当てた記述がされており、内容的に。ただ美術の学習内容の全体を網羅していない嫌いがありますけれども、表現の領域では彫刻と教材とデザインや工芸の教材が、前の2者と比べるとバランスよく、同じ程度取り上げられているのが特徴的な点かと思えます。それから21ページをごらんください。そこには、アイデアスケッチを、ここだけじゃないんですけど、掲載するなど、活動過程がわかりやすく示されているほか、生徒を制作過程の中で教材の色や形から表現を広げるような、自由な活動が期待できる教材が多く取り上げられている点も良いと思います。それから表現、鑑賞の両面でアカデミックなものや、日本の伝統美術だけでなく、コンピューターグラフィック、アニメーションなど先端技術を使った表現だとか、2・3下の28ページです。ここには具体表現とか、なかなか難しいですけれども、日本の昔からのこういったものを取り上げながら、非常に幅広い表現する教材として取り入れているかなと思います。あと余白が多く、図版化の寸法数が小さく、レイアウト上の構図がわかりにくい面はありますけれども、私が気に入ったのは、表紙に美術1と2、3上には名画が掲げられて、使用されていて、非常に美術の教科書かなという印象を受けている点が私は気に入っております。

墨田区との関係で、葛飾北斎の図版が開隆堂では3点、光村図書で1点、日本文教出版では3点それぞれ掲載されています。

以上、それぞれ比較検証した中では、それぞれ長短ありますけれども、美術教材として一番バランスがとれておりますのは、私は日本文教出版であると考えておりますので、これを推したいと思えます。

○**横井委員** 私も日本文教出版がいいなと思っておりました。と申しますのは、鑑賞に堪え得る作品と、

生徒の作品が同じページに載っておりまして、制作するときモデルになるようなものもあるし、自分たちにもこういうアイデアを出させるというようなことが訴えられると意味で、大変いい。大体ほとんどのページがそういうような構成になっておりましていいなというふうに思っております。これは先ほども出ておりましたけれども、そのうちの一部にはアイデアスケッチがあつて、いいかなと思ひました。

○鈴木委員 私も日本文教出版がいいと思ひます。といひますのは、美術館へ行つてみようといひるのは、各1年生の共通であるんですけども、美術館という場所だけを紹介するもの、活動を紹介するものの中で、この日本文教出版だけが修復作業をしている人とか、展示作業をしている人とか、裏方の仕事のこともちんと触れている。だからそこに働いている人たちの様子といひのもわかつて、表からは見えないものまでちゃんと取り上げていひるところからも、日本文教出版がいいと思ひました。

○雁部委員 私はまず開隆堂からいひますと、まず美術書という観点から子供たちに少しでもいいものを見てもらうといひことで、紙質がよくないといひのと、図版が小さい、見づらいいといひことはもうそれで欠点かなと。それから光村図書ですが、現在活躍している作家や工芸家を取り上げていひところは物すごくよいいかなと思ひました。日本文教は大体無難で、コンパクトにまとまっているんですけど、ちよつとおもしろみがないかなといひのはありますね。ちよつとレイアウトがいひひとつ。それでつまらないといひ感じは受けましたけど、大体総合的に見て、日本文教出版の本がいいいかなと思ひました。

○高木委員長 僕も日本文教出版でいいと思ひます。一つは鑑賞や何かで、先ほど横山委員から説明がありましたように、いろいろなものを取り入れている。子供たち、多分いろいろなものに関心があるんだろうと思ひます。特に最近だとコンピューターグラフィックなんかにも関心があるだろうし、もともとあの年代だとアニメーションに関心があつたりですから、美術は幅広いわけなので、そういういろいろなものを、既成の概念にとらわれないで、いろいろなものを取り上げたといひところを買つて、日本文教出版でいいと思ひます。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、美術について採択をしたいと思ひます。美術は「日本文教出版株式会社」を採択することにしたいと思ひますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高木委員長 それでは、「日本文教出版株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、保健体育について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○指導室長 保健体育の目標は「心と体を一体としてとらえることを重視し、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現及び自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を培うこと」となっております。中でも、教科用図書を用いた学習が中心となる保健分野では、主として個人生活における健康・安全に関する理解を通して、自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の基礎を養い、実践力の育成を図ることがねらいとなります。

そこで、課題解決学習や体験的な学習を通して、適切な意志決定や行動選択を行うことができる能力を育成し、心身の健康の保持増進にかかわる実践力を高めることができることが重要になります。保健体育の現在使用している教科書は株式会社学習研究社でございます。全4者からの採択をお願い

します。

○高木委員長 どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆さん、ご意見をよろしくお願いたします。

○鈴木委員 それでは私のほうから言わせてください。保健から始まるか、体育から始まるか、各者それぞれではあるんですけども、一つはやっぱり今回、心と体を一体としてとらえることと、自然災害防災という、そういう視点と両方必要だったということです。それで各者それぞれよいところはあります。

例えば大日本図書では92ページ、93ページに障害の防止ということで、自然災害に備えてリュックに入れておくというリストが出ております。それから学研は口絵の4ページ、自然災害に備えてというようなことがあり、関連ページが58ページから59ページと、出かけるときに持っているというふうな、生徒が例えば自分でリュックを詰めるのはなかなか大変でしょうけど、生徒が自分で持っていけるものということで、非常に身近にしてあります。東京書籍は、例えば60ページ、61ページで、障害の防止というところでそういう意味では、火を消しましょうとか、机の下に入りましょうとか、そういうようなことはあるんですけども、持っていけばよいものみたいなところの指摘はありません。

各者それぞれ詳しいところがまた別にいろいろありますが、その中で、私としては学研がよろしいのではないかと考えております。なぜならば、例えば大日本図書ですと、127ページに詳しいことの例として話をいたしますと、資料50、細菌とウイルスの違いというようなことが書いてありまして、なかなか高校でも難しいような内容ではないかと思えます。それに対して学研の66、67ページをごらんいただくと、骨折、脱きゅう、捻挫というふうにならばちょうど中学生ぐらいの世代が、本当はあってはいけないのしょうけれども、ありがちなけががどういうふうになっているのかということがとてもわかりやすく身近です。そういうことを含めて考えますと、この4者の中では学研が一番、中学校の生徒にふさわしい内容なのではないかと思えますので、学研がよろしいのではないかと推薦したいと思えます。

○高木委員長 僕がこの保健体育のときは、いつも重点的に見るところが決まっています。生活習慣病から「喫煙と健康」、「飲酒と健康」、それから「薬物乱用と健康」という健康のところに関心があります。特に「喫煙と健康」です。要するにあの年代だと興味本位でいろいろなことに関心を持つわけです。「喫煙と健康」を見ますと、学研が一番オーソドックスです。84、85ページです。ここでは一番問題になるのは資料4、非喫煙者と喫煙者のがんの死亡率ということです。それから喫煙期間、こういうふうになっている。そういうようなことで、最近、副流煙がうるさいので、副流煙までついているというので、かなり詳しく載っています。それに比べて、比較するとおもしろいんですけども、例えば東京書籍の90、91ページです。これについても91ページに、そういうのががんの死亡比率ですね、非喫煙者と喫煙者、それはあります。違いがどこかという、副流煙がないんですね。そのかわり、いつから吸うとどうなるかというのが資料7という格好で、年代別の表があるところが、この東京書籍のなかなかいい点だと思います。

それから次は大日本図書だと、118、119ページ、これを見ると国際比較が載っているというのがいいんですが、最もメインになる喫煙者と非喫煙者を比べた場合の部位別がん発生率、それがありません。だからこれはちょっと弱いと思えますね。それから、大修館書店、これの128、129ページです。

これも開始年齢別は載っているんですが、肝心の部位別のがないですね。これは飲酒のほうが、130、131ページの飲酒のほうに回されました。

そういうふうに考えると学研か、あるいは東京書籍がいいだろうという形になります。喫煙期間を年代で代用させれば、この学研がいいだろうというふうに思います。

○**横井委員** 私も今、皆さんがおっしゃったようなことを含めて考えておりました、学研でいいかなと思います。小学校もたしか学研でした。全体、内容的にバランスがとれていましていいと思います。

○**教育長** 私も学研が全体的に良いと思います。とりわけ71ページからの健康な生活と内容が、中学生の子供にも非常にわかりやすい貴重なデータだとか、イラストを工夫しながら、非常にわかりやすい内容で非常に良いと思いました。ですから、そういうことから学研がよろしいと思います。

○**雁部委員** 同じく私も学研が良いと思います。自然災害を踏まえた上でかなり詳しく書いてあるのと、やはり委員長がおっしゃったように、飲酒、喫煙についても書いてあります。また先ほど鈴木委員が言った実務的な骨折の固定の仕方とか載っていてよいのではないかと思います。一つだけ気になったのは、運動とスポーツという他者が扱っている中で、スポーツという言葉だけでまとめているというのは、余り意味がわからなかったのですが、言葉としてどこが違うのか、少し説明があればよいと思いましたが、バランス的に見て学研がよいのではないかと思います。

○**高木委員長** ほかに何かつけ加えたい方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは保健体育について採択したいと思います。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、保健体育について採択をしたいと思います。保健体育は「株式会社学研教育みらい」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○**高木委員長** それでは、「株式会社学研教育みらい」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、技術・家庭のうち技術分野について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○**指導室長** 技術・家庭の目標は「生活に必要な基礎的な知識と技能の習得を通して、生活と技術とのかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」となっております。次に技術分野の目標は、「実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。」となっております。学習指導要領では、現代社会で活用されている多様な技術を4つの内容に整理し、すべての生徒に履修させることになっております。4つの内容は「A 材料と加工に関する技術、B エネルギー変換に関する技術、C 生物育成に関する技術、D 情報に関する技術」でございます。また、思考力・判断力・表現力育成のため、「言語活動の充実」の観点から、レポートの作成や論述、設計図やフローチャートを用いて考えたり、考えを伝え合う活動を充実させたりすることが、指導要領で求められている点でございます。技術分野で現在使用している教科書は、東京書籍株式会社でございます。全3者からの採択をお願いします。

○**高木委員長** ありがとうございます。

それでは、委員の皆さん、ご意見よろしくをお願いします。

○**雁部委員** まず東京書籍ですが、情報量も多くて、説明も詳しく載っていて、技術書としては申し分ないと思います。学習のまとめりに学習の目標とチェックがあり、学習の取得に有効である。また、ものづくりのための設計、制作の手順がイメージしやすくなっています、スカイツリーを初め、活用されている技術及び技術者が写っている写真が多い。

開隆堂は見開き、目次、ガイダンスとも学習意欲をそそる工夫がしてあります。これからの情報社会に対応すべく情報に関する技術のページがかなり多くとってあります。それから各ページ下にまとめ知識って書いてあるんですが、そこは割と読んでいておもしろいと思いました。

教育図書は、子供たちのものづくりの大切さを考えさせる表記が多くてよいと思います。写真が多くて、視覚的に有効であると思います。栽培では各項目とも説明が詳しくわかりやすかったです。自学自習の制作題材を多く取り上げているところが特徴だと思います。問題点としては東京書籍は、栽培に関するところで暦がないので、この辺がちょっと難点かなと。開隆堂はエネルギーについての説明で流れがよくわからない。文字量が多くて、やや煩雑である。作成の仕方の写真が小さいので見づらい。教育図書は情報モラルに関する掲載が少ない。写真等の建造物の場所の表記がなされていないというところが欠点で、私は東京書籍を薦めたいと思います。

もう一つ、スカイツリーに関しては3者とも載っているんですが、東京書籍は15ページで、実際にスカイツリーを建てているときの溶接している様子などが載っております。開隆堂はスカイツリーに関しては、見開き2ページにイラストとして載っております。一番いいのは教育図書で83ページ、スカイツリーの材料と加工に関する技術というところで、実際はこういうふうになっているという地下の部分の説明してあるというところがよいと思います。

全体的に考えて、東京書籍がよいのではないかと思います。

○**横井委員** 今、ICTの時代で、子供たちがインターネットに接続していることを考えると、情報モラル、あるいは自分の情報を保護するということが重要なので、そういう点では開隆堂が6ページにわたって、そういう新しい情報モラル、知的財産権についての話が載っておりますのでいいのですが、先ほど話があったように、やっぱり細かい制作や何かのところの説明がやや大雑把なところがある。そういった点で、東京書籍は情報モラルについても4ページを費やしておりますし、中身についても先ほど雁部委員がおっしゃったとおりなので、東京書籍でよいのではないかなと思います。

○**鈴木委員** 私が中学時代、技術を習いませんでしたので、とても新鮮な思いで今回拝見いたしました。私も東京書籍がいいと思うのは、学習のまとめがきちんとしていることと、東京書籍は基本的な理念として、技術を生み出し、支えていくのは人だと考えています。東京書籍の例えば94ページであるとか、百五十何ページだったか、からくり人形であるとか、日本人が生み出してきたさまざまな知恵と技術というものを紹介しているのがなかなかいいなと思います。それも世界に通用し、世界の例えば超高層ビルに生かされていますというような表現をして、ちょっとほっとするようなそういうところが書いてあるので、東京書籍がいいのではないかと思います。

○**教育長** それぞれ工夫されているんですが、東京書籍版は一番図解等が見やすく、子供がわかりやすく理解できる気がしますので、私も東京書籍出版を推したいと思います。

○**高木委員長** 私も東京書籍でいいと思います。もうお話がいろいろあったんですが、もちろん東京スカイツリーもそうですし、情報関係の通信ネットワークですね。そこではやっぱり活用もいいんだけど、それに対するリスクですね。だから適切に利用するということが非常に重要なんだろうと思います。

それから、学習のまとめというのが、もちろん各出版社載っています。載っているけれど、例えば東京書籍、一番最初に出てくるのは92ページでしょうか。まとめ。この項目を見ると、よくできた、大体よくできた、もう少し努力しようとか、自己評価をやるんですね。確かめてね。さらに、やってみようというところへ発展させるという、一応段階的に追いかけるという、そういうやり方は大変いいと思ひまして、まとめ方の参考になるということで、東京書籍を私も推薦いたします。

ほかに何かご意見ございますでしょうか。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、技術家庭の技術分野について採択をしたいと思ひます。技術分野は「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思ひますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高木委員長 それでは、「東京書籍株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、技術・家庭のうち家庭分野について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○指導室長 家庭分野の目標は「実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。」となっております。次に新しい学習指導要領による主な変更点ですけれども、1つ目、家族・家庭に関する教育の充実。2つ目、食育の推進。3つ目、消費者をはぐくむ視点の充実。4つ目、生活文化の継承と発展の視点の重視、等の点がそれぞれ新規に、または色濃く取り扱われることとなっております。家庭分野の現在使用している教科書は、開隆堂出版株式会社でございます。全3者からの採択をお願いします。

○高木委員長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆さん、ご意見よろしくお願ひいたします。

○鈴木委員 まず三者三様で、指導室長のお話にもありましたように、それぞれ特徴をもって、色濃く出しております。一つは教育図書、新規参入なんだと思うんですが、生活の中での食ということをととてもとても重視してしまひて、非常にきれいです。とにかく写真とそれから作り方のレシピがとても細かくて、このまま料理の参考資料としても売れるのではないかといいくらいにきちんと書かれてはいるのですが、その分、家族とか育児、幼児の発達という領域に関しては一番3者の中でページ数が少なく、なおかつ幼児の、例えばおもちゃの手づくりしましょうといつても、それはどういうふうに、例えば使つて、どういうふうに遊んでというようなところまではいっていないといひか、つながってこないといひところの特徴を持っています。

その点、開隆堂は、今度家族、家庭ということに関しては非常に力を入れておひまして、先ほどの公民と絡むのですが、例えば開隆堂の25ページは、男女共同参画社会を目指してといひことで、キャリア官僚で育児休暇をとつた方のインタビューが載つていたり、世界の子供たちは今といひのが64ページ、65ページぐらいに出ていたりといひふうに、子供のこと、子育てのことにすごく力を入れておひます。反面これは、実は多分よし悪しでもあると思ひますが、おもちゃをつくらうといひことで、44ページ、45ページぐらいを見ますと、実際にこういうのをつくりましょうみたいな形になつてしまつて、例えば2歳ごろまでこういうおもちゃがいいですよといひられても、2歳ごろまでといひのは非常に個人差と月齢差が激しいときなので、例えばこのまま喜んでつくつていひて、全然受けなかつたりとかするとかわいそうかなと。ちょっとこういう形での提示といひのは、いい面と悪い面があるなといひふうに思ひました。

最後の東京書籍なんです、東京書籍は小学校家庭科からの引き継ぎということ、最初のほうに、生活や学習を振り返ろうという形で、10ページから小学校家庭科の学習というふうに、学習したことを振り返った上で、次に12ページにどんな自分になりたいかということで、1年生の初めと3年生の終わりに点数化して、入れている。自分でしている、していないというような、自立度チェックみたいなものなんですけれども、そういうようなことが書いてあります。食に関しても、それから住居に関しても割と3者の中で一番そういう意味でのバランスはとれているなというふうに思いました。墨田区との兼ね合いで言うと、これは非常にめずらしいと思いましたが、133ページに地域での防災の取り組みとして、東京都墨田区ではというふうにして書いて、路地尊が写真つきで出ております。住まいとか、それから子育てとか調理とか、とにかくさまざまな生活科学全体を見渡す家庭科なので、ある意味でやっぱりバランスというのとはとても大切なので、そういう意味では東京書籍が一番バランスがとれているのではないかと思いますので、東京書籍を推したいと思います。

○高木委員長 ほかの委員の方、いかがでしょうか。

○横井委員 これは指導要領の問題かもしれないので、機会があったら、ぜひどこかに伝えていただきたいんですけども、今の子供をしつけるというので、親がしつけをしているつもりで虐待しているのがありますよね。今回この3冊を読み比べていて、はたと気がついたんですけども、教育図書は40ページ、それから開隆堂は36ページ、それから東京書籍は178ページに基本的な生活習慣というのがあります。幼児に基本的な生活習慣をつけるということは非常に重要なことなだけども、それは物心がつくといいですか、1歳過ぎて、自分でいろいろできるようになってからやることで、1歳前の子供に基本的な生活習慣なんかつけられないですよ。

東京書籍だけ、その前のページ、177ページに「1歳ごろまではほとんど大人に頼って生活していますが」と書いてあるんですけど、ほかにはそういう表記がないんですね。1歳まで歩くとか何とかということは書いてあるんだけど。だから1歳ぐらいまでは、そういうしつけができないんだというふうなことをきちんとしないと、16歳で女子は結婚できるわけですから、中学を卒業して、これだけの知識で子供を育てるとしたら、虐待は起こり得るなと思いました。東京書籍に基本的な生活習慣の前に、1歳ごろまでは大人に頼っているんだよということがあっても、これはいい手がかりになるなと思いました。

○雁部委員 東京書籍は食育を最初に取り上げているというところが大変いいと思います。実習の例の写真が多くて非常にシンプルにまとまっております。やはり先ほどお話がありました、幼稚園、小学校、中学校の関連性がなかなかスムーズに取り上げられているかなど。開隆堂は、折り込みがあって、写真も多くてインパクトはあるんですけども、内容の構成について統一性がなくて、多少見づらいかと。言語活動、発展的内容はいいと思います。

教育図書は、実生活、住生活のページが充実しておりますが、図や写真が小さいので、そこで見づらかなということ、バランス的に考えると、東京書籍さんがよいと思いました。

○教育長 私も東京書籍版が、見開きですけども、ページ8から11ページ、小学校での学習と日々の生活に関連づけて、今後の学習に見通しが持てるような、そういう工夫がされているので非常に良いと思います。あと学習のまとめ編ですね。第2編、第3編も、まとまりごとに学習の目標と、振り返って学習のまとめがあって、そういった意味で学習の修得に子供たちにとって有効であるように思っておりますので、東京書籍が良いと思います。

○高木委員長 もう皆さん、ほとんどお話になられたので、私もつけ加えることはないんですけど、やっ

ばり性差に関する話。これは何だろう。家庭という狭い範囲じゃなくて、社会とのかかわりなので、その辺がきっちり抑えられているかどうかというのは、非常に重要だと思うんですね。それを大きい話になると、男女共同参画社会になるんだと思います。だからその辺の記述がどの程度、どういう形でとられているかということが割と一つ重要なんだろうと思います。

3者とも全部取り上げているんですね。それぞれ取り上げているので、これについては余り差がないのかなという気がします。むしろ先ほど鈴木委員のほうからお話がありました路地尊の話とか、あと家族の話ですね。そういうところで、東京書籍が優れているように感じました。だから東京書籍で構わないというふうに思います。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」のうち、技術家庭の家庭分野について採択をしたいと思います。家庭分野は「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高木委員長 それでは、「東京書籍株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして、外国語・英語について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いします。

○指導室長 外国語の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養うこと」となっております。新しい学習指導要領の主な変更点について申し上げます。1つ目、4技能（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）を総合的に育成する指導を充実させる。2つ目、授業時数が各学年105時間から140時間に増加する。3つ目、指導すべき単語数が900語程度から1200語程度に増加している。4つ目、発音と綴りとを関連付けて指導することが求められている。5つ目、小学校における外国語活動の内容や指導の実態等を十分に踏まえること、これらが求められています。英語の現在使用している教科書は東京書籍株式会社でございます。全6者からの採択をお願いします。

○高木委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆さん、ご意見よろしくお願ひいたします。

○教育長 英語教科では、選定に当たって幾つかの観点があると思います。まず小中の円滑な接続ということがあると思います。小学校における外国語活動の内容だとか、指導の実態等を十分踏まえることが必要となりますけれども、どの者も基本的には本編に入る前に振り返りのページが設けられています。そうした意味では小学校の接続に一定の配慮がされているというふうに思いますけれども、この中で、まず東京書籍のウォームアップです。これについては英語のつづり、それからアルファベットの書き方などの指導をしながら、小学校の外国語活動での内容を振り返り、補完することができるほうがよいかと思います。また、イラストの雰囲気は独自の教材である墨田イングリッシュのものと極めて似ている点も親しみが持てるかと思います。

三省堂は冒頭に同じようにゲットレディということで、項目を設けていまして、小学校の内容を振り返って、生徒の足並みをそろえるような配慮がされておりますけれども、東京書籍と比べてやや振り返りの部分が少ないのかなという印象を持ちます。

次の観点では、本区の開発的学力向上プロジェクトの結果を見ても、リスニングの問題に関して一定の学習効果があらわれているんですけども、その一方で単語の語彙力の不足、それから一番英語

をまとめて読み取ることができないなどの課題が挙げられています。そうしたことからまとまった英文を読み取るということが大事かと思えます。そうした観点から三省堂は、例えば3年の65ページに、有名な公民権運動のキング牧師の「I have a dream」という有名な教材があります。これは非常にまとまった英文を読み取らせるには良いと思うのですが、題材的には非常に重厚な内容ということで、ここに入る前にその背景だとか、いろいろなガイダンスを子供たちにしないと、なかなかついていけないのかなというふうに思います。一方、東京書籍本では3年の応用編には長文読解教材も掲載していて、生徒にまとまった英文を読み取る力をつけさせるのには適しているのかと思えます。それから全学年のリスニングプラスでは、図だとかグラフの選択、英語での問いと答えなど、最近の入試出題形式を取り入れた課題を提示しているかと思えます。

参考までに各学校からの意見を紹介しますと、東京書籍は先ほど言ったことと同じです。小学校との接続が丁寧であって、内容も中学生にとって親しみやすく適切だということ。開隆堂については、英文、基本文がわかりやすく、重要事項が明確であるけれども、体裁が独特、つまり大版になっています。それから学校図書ですけれども、英文の量が少ないこと、また本文と基本文の区別がしづらい。三省堂は扱っている題材がよいが、専門的な内容が多いので、生徒へのガイダンスなどを必要としている点が時間的には厳しいという意見です。それから教育出版については、基本文がわかりやすく、重要事項が明確なのは良いけれども、日本語での説明が多い。光村出版については口語的会話表現が多くて、3年生にはもっと社会的に重厚な内容があってもいい。

以上を総合的に見て、私は東京書籍か三省堂に絞られるかと思えます。その上で2者の比較となりますけれども、東京書籍が聞く、話す、読む、書くの4機能を生徒の身近な題材を通じて、バランスよく育成しようとしているのに対して、三省堂はやや重厚な題材を用いて、4機能を育成しようとしており、先ほども申し上げましたけれども、初めて教科としての英語を学習する生徒たちには難しい印象を与えるのかと思えます。小学校の外国語活動が活動中心の、いわば子供たちにとって楽しい時間だっただけに、英語が難しいものという印象を与えると、杞憂の部分ではありますけれども、こうしたことから初めて教科としての英語を学習するには、生徒の興味関心を引き出す工夫がされていて、発達段階に即して適切な教材や題材が取り上げられている東京書籍を、私としては推したいと思えます。

○横井委員 最終的にはいろいろ述べられたことを考えれば東京書籍でいいと思えます。ちょっと気になっているのは、学校図書なんです。学校図書は、先ほどの指摘にもあったように分量が少ない、時間数がふえておりますから、その辺どう考えるか難しい。少ない量を着実に身につけるといいますか、語彙がうんとふえているわけですから、教科書全部を覚えるぐらいのつもりで、丁寧にやるということも考えられるかなとも思いましたけれども、やっぱりそこそこに先生たちも指導したいでしょうから、東京書籍かなというところです。

○高木委員長 これ、一応英語の教科書なんですよ。ヒアリングが出にくいですが、英語だからいろいろな文法面とか、書くこと、そういうことや何かが全部載っている。

問題は先ほど横山委員から言われたように、扱う題材が一つポイントになるんですね。要するに英語を使って違うことをやる、と言うと怒られちゃうけど、あることに関心があるとそういう方向に題材が配列されてしまう。その危険性が一番あるんですね。同じ語学ですからね。そういう題材の選定や何かを見ますと、開隆堂なんです。開隆堂の目次を、3年生ですね、今言ったような議論は全部3年生。そうすると、開隆堂にしても、マザーテレサの話は第9章だし、その前がクリーンエネルギー

ギーソースだし、それからあなたにとって最も重要な、というような感じで、こういうのが選ばれているんですね。

先ほどの横山委員の話だと、題材が軽いということですがけれども、マザーテレサなんて軽くないと思うんだけど。そういうふういろいろな題材を見ると、東京書籍はバランスがとれているんですよ、題材のとり方がね。三省堂は重いとと言われていましたけど、例えば3年の4ページ、各レッスンで学ぶことというのがあります。題材のところを見ると、確かにアメリカの公民権運動、日本の原爆から始まって、ちょっと重そうなタイプがあるということがおわかりいただけると思います。だから、三省堂は物すごく英語の配置とか、そういう面ではよくできた教科書です。題材がどうかなというのが気にかかるのが、横山委員と同じです。ですから、私も東京書籍で構わないというふうに思います。

ほかの委員の方、いかがでしょうか。

○鈴木委員 私もやはりその題材と同時に、文法をきちんとどうしたらわかりやすく伝えられるかというところから見ていくと、やはり三省堂か東京書籍が残ったんですね。それはなぜかといいますと、三省堂のほうは例えば110、111ページ、時制を、自分が立っているポジション、あるいは寝ているところとかで、ここからここまでのことをあらわしている今とかというふうに非常にわかりやすい。日本語と英語の違いというのがその次のページに出ていますけれども、前置詞につながるこういうようなことも、図解で見るとわかりやすいかなと思います。ただやはり英語の文章を読むと難しいなというのが、正直な感想です。

東京書籍に関しましては、例えば3年生の70ページ、71ページぐらいに、SVCの5つの文構造が列車の形で出ておまして、割と文法の基本的なことがこういう図解でわかりやすく出ているところがすごくいいなと思ったのと、文章を読んで、短くはないけれど、難しくもないという意味では、やはり東京書籍のほうが本区にはいいのかなと思いました。なので東京書籍がいいのではないかと考えています。

○雁部委員 今、小学校でも英語活動をやっていますけど、小学校の段階でやはりかなり好きな子、嫌いな子が出てきてしまっているのが、英語が苦手だという意識を植えつけてしまうと、もうずっとできない状態になってしまう。まずは導入としてわかりやすいということが第一だと思います。導入がわかりやすいのはやっぱり東京書籍と、開隆堂ですね。小学校英語の再確認をしているという点はいいですね。

三省堂ですが、やはり質量とも申し分なくレベルが高いということを感じまして、墨田区の子供たちには少々難しくて不向きではないかと。小学校からの導入の配慮がなく、いきなり入る形になるので、難しく感じてしまうのではないかと懸念があります。

教育出版は、無理なく段階的なレベルアップを図っているんですが、内容的には悪くはないんですが、東京書籍と比べるとちょっとわかりにくいかなというのがあります。

光村図書は、英語の音と文字を結びつける活動を設けていて、この辺は新しい取り組みかなと。それから3年生になると共通の読解があるんですけど、内容はいま一つということで、バランスから見るとやはり東京書籍ということですね。

○高木委員長 皆さん気づいたと思うんですけど、三省堂で1年生の116ページ、117ページに、しおりが入っています。これまずいというんで、外すという事前の提案です。だからここは割と敏感に反応しますから、三省堂は。それなりに英語に力を入れていることは事実なんだろうと思います。だから、この検定済みを見ると2月4日ですから、3月11日の前にこういうことをしたんだと、これはまずい

と思ったんでしょうね。

よろしいでしょうか。

それでは議決事項第1、議案第53号「平成24年度使用墨田区立中学校教科用図書採択について」のうち、外国語について採択をしたいと思います。外国語は「東京書籍株式会社」を採択することにはしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○高木委員長 それでは、「東京書籍株式会社」を採択することに決定いたします。

以上で、すべての教科等について、採択が終了しました。

議決事項第2

議案第54号「平成24年度墨田区立学校特別支援学級における学校教育法附則第9条図書の採択について」の案件を上程し、指導室長が説明する。

○高木委員長 何かご質問はございますでしょうか。

それでは、議決事項第2議案第54号「平成24年度墨田区立学校特別支援学級における学校教育法附則第9条図書の採択について」は、原案どおり採択したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○高木委員長 それでは、原案どおり決定します。

以上で予定の議決事項は終了しました。これで教育委員会を閉会いたします。